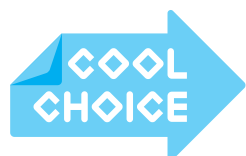




●表紙のキャッチフレーズについて

ワクワクミウラ：ミウラグループは世界のお客様に省エネと環境でお役に立つために、お客様をワクワクさせたい、日本中をワクワクさせたい、そして世界にワクワクを広めたいという思いを「ワクワクミウラ」というキーワードに乗せ、省エネルギーや省資源、環境負荷の低減をテーマとした製品やシステムの開発、提案を推し進め、CSR活動を強化しています。



未来の
ために、
いま選ぼう。



こちらの報告書PDFは、認証紙に印刷された認証印刷物のデータを使用して作成しました。



こちらの報告書PDFは、印刷時、植物油インキを使用して作成しました。



こちらの報告書PDFは、印刷時、水無し印刷機を使用して作成しました。

ミウラグループの概要・事業内容



三浦工業株式会社

- 社 名 三浦工業株式会社
- 事 業 内 容 小型貫流ボイラ・船用補助ボイラ・排ガス（廃熱）ボイラ・滅菌器・食品機器・水処理装置・薬品等の製造販売・メンテナンス・環境計量証明業等
- 所 在 地 愛媛県松山市堀江町7番地 〒799-2696
- 代 表 者 代表取締役 社長執行役員 CEO 宮内大介
- 創 立 1927(昭和2)年12月1日
- 設 立 1959(昭和34)年5月1日
- 資 本 金 95億4,400万円
- 発行済株式総数 12,529万株(東証一部)
- 証券コード 6005
- 連結売上高 990億19百万円(2015年度)
- 従 業 員 数 連結4,665名(2016年3月31日現在)
グループ約4,800名(うち海外約1,270名)
(正社員・準社員のみ)

注1) 2016年4月1日付けで代表取締役社長 高橋祐二が代表取締役会長に、取締役 宮内大介が代表取締役社長に就任いたしました。
注2) 2016年7月1日より、代表取締役社長は、代表取締役 社長執行役員 CEO に変更となりました。

グループ会社(国内)

- 三浦工機株式会社
- 三浦アクアテック株式会社
- 株式会社ミウラ・エス・エー
- 株式会社三浦マニファクチャリング
- 三浦マシン株式会社
- 三浦環境マネジメント株式会社
- 株式会社丹波工業所
- アイム株式会社

グループ会社(海外)

- 韓国ミウラ工業株式会社
- ミウラカナダ株式会社
- 三浦鍋炉(股)有限公司
- ミウラインターナショナルアメリカス株式会社
- ミウラアメリカ株式会社
- 三浦工業設備(蘇州)有限公司
- マルセ工販株式会社
- ミウラシンガポール社
- ミウラインドネシア株式会社
- ミウラボイラメキシコ株式会社
- ミウラボイラブラジル有限会社
- ミウラネザーランド株式会社
- 三浦工業(タイ)株式会社
- 三浦トルコ熱システム工業有限会社
- ミウラサウスイーストアジアホールディングス社

事業概要

ミウラグループは国内での「小型貫流ボイラ事業でのトップシェア」というお客様からのご支持をベースに、熱エネルギー利用技術や水処理技術に加え、食品の加熱加工や冷却、また医療器具等の洗浄や滅菌、さらには環境関連技術を軸とした事業領域で、お客様の抱えられている問題を解決する製品とサービスをお届けしています。

これからも、これまで培ってきた総合力を発揮し、ボイラ室といった限られた場所にとどまらず、工場や施設、地域といったエリア全体での多様なご要望にお応えし、お客様との強固な信頼関係を築き上げ、ベストパートナーとして日々研鑽に努めてまいります。



三浦工業株式会社 本社

海外の事業拠点

現在、ミウラグループの海外現地法人は韓国、中国、台湾、ベトナム、タイ、シンガポール、インドネシア、トルコ、オランダ、カナダ、アメリカ、メキシコ、ブラジルの13の国と地域に15社、7工場となっており、各国の法規制や需要に応じた製品を生産し、販売とメンテナンスを行っています。

国内と同様に、世界のお客様にもミウラグループの製品をご愛用いただいています。



※CIS諸国:旧ソ連を構成していた複数の共和国からなる主権国家の自由連合体



全国に広がるミウラのネットワーク

全国約100カ所のミウラのネットワークと、1,000名を超えるサービスエンジニアによる機動力で、迅速で的確なメンテナンスを提供しています。

そして国内を網羅したネットワークは、さらに世界へと広がっています。



目次

ミウラグループの概要・事業内容	● 1
編集方針/対象範囲/報告対象期間	● 2
ミウラグループ理念体系	● 3
ミウラグループ企業行動規範	● 4
トップコミットメント	● 5

特集

① ミウラグループのグローバル展開	● 7
② 技術・製品・サービスの進化	● 9
③ 製品による環境貢献	● 11

環境報告

環境マネジメント	● 15
環境管理活動	● 17
環境教育と訓練	● 18
汚染防止の取り組み	● 19
自然との共生	● 20
省エネルギーの取り組み	● 21
省資源の取り組み	● 22
国内営業・メンテ拠点におけるCSR活動	● 23
海外現地法人におけるCSR活動	● 24

社会性報告

コーポレート・ガバナンス	● 25
コンプライアンス、リスクマネジメント	● 26
お客様への責任と行動	● 27
株主・投資家への責任と行動	● 29
取引先への責任と行動	● 30
地域社会への責任と行動	● 31
従業員への責任と行動	● 32

読者からのご意見

第三者意見	● 33
第三者意見を受けて／読者アンケートの結果	● 34

編集方針

本報告書はミウラグループのCSR(企業の社会的責任)を果たすための基本的な考え方や、取り組みに関する2015年度の実績と、今後の計画を報告するものです。

CSR活動で特に重要と考えている環境、品質とCS(顧客満足度)、人材育成や社会貢献といったキーワードを中心に、各ステークホルダー(ミウラグループと関わるさまざまな利害関係者)からの関心が高いと思われることや、ミウラグループがとくに注力していることを優先的に報告しています。

対象範囲

国内グループ会社及び海外グループ会社については、一部含まれない会社もあります。

報告対象期間

2015年4月1日～2016年3月31日
但し、本文の記述のなかには一部過去と、直近の情報も含まれています。

WEBサイトでの情報開示

ミウラグループのCSR・環境情報は、WEBサイトでもご覧いただけます。

- CSR専用サイト
<http://www.miuraz.co.jp/corporate/csr.html>
CSR報告書発行後に誤記・誤植が確認された場合は、ここに正誤情報を掲載します。

ミウラグループ理念体系

『モットー』の土台の上で、『企業理念』を達成させるために『経営指針』と『ミウラウェイ』の2本柱がしっかりと支えている様を描いています。

企業理念

1. 熱・水・環境の分野で世界を舞台に、資源の有効活用と環境に優しい社会の創造に貢献します。
2. 顧客に役立つ技術を磨き、顧客に愛され・信頼される企業となります。
3. 品性を重んじ、社員が誇りを持って働ける企業となります。

経営指針

1. グループの総合力でグローバル化を推進する。
2. テクノサービスで世界のベストパートナー企業を目指す。
3. 社員の潜在能力が最大限発揮できる職場作りを目指す。

モットー

『我々はわが社を最も働きがいのある、最も働きやすい職場にしよう』

企業理念

経営指針

ミウラウェイ

モットー

ミウラウェイ

1. 創造と挑戦
2. 信頼と対話
3. 公平と公正



社員に
配布している
和英併記の
ハンドブック

ミウラグループ企業行動規範

1. 法令等の遵守

- ・国内外の法令を遵守することはもちろん、企業倫理に照らして誠実かつ公正に業務を遂行します。
- ・国際的な事業活動においては、国や地域の文化・慣習を尊重します。

2. 安全性の重視

- ・安全性を第一に考えたものづくりを行います。
- ・健康で安心して働ける、最も働きがいのある職場づくりに努めます。

3. お客様の満足・信頼

- ・社会的に有用で高品質の製品やサービスを創出し、お客様に満足をお届けしてまいります。
- ・最高のテクノサービスを追求し、お客様から信頼される企業へと進化発展を遂げることを目指します。

4. 人権の尊重

- ・従業員の人格、個性を尊重し、自由かつ公平な職場の実現に努めます。
- ・人種、国籍、民族、宗教、信条、性別など、非合理的な理由により差別的な取り扱いはいりません。

5. 取引ルールの遵守

- ・公正で自由な競争に基づく事業活動を行います。
- ・取引先と良好な信頼関係を築き、ベストパートナーを目指します。

6. 環境問題に対する取り組み

- ・環境への配慮を重視した製品・サービスを開発、提供し、地球環境保全に貢献する企業を目指します。
- ・事業活動から生じる環境への影響を考え、環境負荷や環境リスクの低減に努めます。

7. 社会貢献・反社会的勢力との関係

- ・「良き企業市民」として積極的に社会貢献活動を行います。
- ・反社会的な活動を行う団体や勢力とは、一切の関係をもちません。

8. 企業情報開示・情報管理

- ・社会が必要とする企業情報を適正かつ適時に開示し、開かれた企業を目指します。
- ・個人情報やその他の重要な秘密情報は、細心の注意をもって管理し、その保護に努めます。



ミウラグループ
企業行動規範が
記載された
ミウラ手帳

『世界一安くて良い熱・水・環境商品 を世界のお客様に届けよう!』

三浦工業株式会社
代表取締役 社長執行役員 CEO

宮内 大介

三浦工業株式会社
代表取締役会長

高橋 祐二

CSR活動は 企業のミッション

ミウラグループは、「お客様最優先・安全最優先」企業として、お客様の抱えられている問題を解決する「トータルソリューション」の提案を通じて、お客様の省エネルギーや環境の保全に貢献することが重要なCSR活動であり、同時に企業のミッションであると考えています。

近年では、ボイラから供給される蒸気エネルギーを活用した「蒸気駆動エアコンプレッサ」や、お客様が導入されている自家発電装置から排出される排ガスの熱エネルギーを回収して有効活用する「排ガスボイラ」の提案に加え、食品機器やメディカル機器も豊富な製品を取り揃え、さまざまな視点で「トータルソリューション」を展開しています。

また、環境に配慮した製品として船舶のバラスト水

が排出先の生物に影響を与えない「バラスト水処理装置」を開発するなど、新たな事業領域のお客様にもミウラグループの製品やサービスをお届けする準備を整えています。

ミウラグループは、日本で培った省エネルギーや環境技術を世界に展開し、エネルギー問題や環境問題の改善に役立つ企業を目指してまいります。

CSRを企業活動の 主軸に据えて推進

CSRは一般的に「企業の社会的責任」と訳されます。CSRを理解するには、まず、この「責任」という言葉の本質を理解しなければならないと考えています。

「責任」とは、立場上当然負わなければならない任務や義務のことですが、その性質によって「他律的責任」と「自律的責任」に分けることができます。前者は社会から強制的に負わされる責任であり、法律を遵守する

こと、社会通念上当然に要求される物事を守ること、反社会的活動を行わないことなどが挙げられます。この「他律的責任」を果たさない企業は社会から必ず排斥されます。

それに対し、後者は社会から強制的に負わされる責任ではなく、あくまで企業が社会からの潜在的要求への対応を責任として認識して自らに課すものであり、地球温暖化防止活動や各種ボランティア活動などが挙げられます。「自律的責任」は企業自身の意思決定により課せられたものであり、この責任を果たさなかったとしても社会から排斥されることはありません。

CSRとは、この二つの責任を果たしていく活動であり、企業の持続的成長の一助となるものです。昨今、企業間競争はより激しさを増しており、社会から選ばれる企業になるためには、もはや良い製品・サービスを提供するだけでは不十分です。いかにステークホルダーの期待に応え、社会に貢献するかが大切です。ミウラグループは、CSRを企業活動の主軸に据えて、強力に推進しています。

CSR活動の充実 は企業の成長に不可欠

CSR活動は、企業の事業活動と直接的な関わりが薄く、そのコストは不要なものとして認識されがちです。しかしながら、CSR活動は企業の信頼を高める活動そのものであり、その充実はずっと企業の成長につながります。

ミウラグループは、創業者が掲げた『世界一安くて良いボイラを創ろう』をスローガンにスタートし、それを発展させながら省エネルギーや環境保全に貢献してきましたが、これからは『世界一安くて良い熱・水・環境商品を世界のお客様に届けよう!』を新たなスローガンとし、「トータルソリューション」の提案活動を通してすべてのお客様の信頼に応えたいと考えています。また、その活動を通して、あらゆるステークホルダーの期待に応えてまいります。

今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

省エネと環境保全でグローバル社会貢献

現在、世界20の国と地域で蒸気ボイラを販売し、現地法人は13の国と地域（韓国、中国、台湾、ベトナム、タイ、シンガポール、インドネシア、トルコ、オランダ、カナダ、アメリカ、メキシコ、ブラジル）に展開しています。日々進化し続けるミウラグループの海外展開をご覧ください。

中国の大気汚染への取り組み

中国の大気汚染は深刻な問題です。ミウラグループは、その要因の1つとされる石炭焚きボイラを環境にやさしいガス焚きボイラに変える提案活動を行い、「中国の空をきれいな青空に変えていこう」と全力で取り組んでいます。また、広大な中国で行き届いたサービスを提供できるように、積極的な拠点展開を行っています。



韓国での省エネ技術による貢献

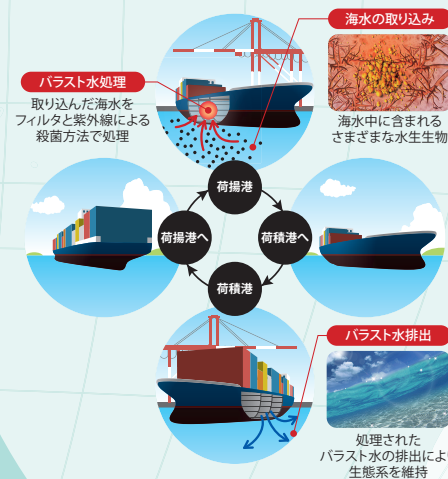
韓国経済の特徴は財閥によってリードされていることです。この韓国財閥に、ミウラグループの高効率で環境にもやさしい貫流ボイラを採用してもらおうと取り組んでいるのが「韓国財閥戦略」です。

さらに2015年には、高効率貫流ボイラの浸透、環境問題へのサポートが韓国政府に認められ、韓国大統領より「韓国エネルギー効率大賞」を受賞しました。（詳細は24ページに掲載しています。）

世界の海洋環境を守る

船用事業では、「バラスト水管理条約」の発効に向けて、「バラスト水処理装置」を開発しました。環境保全機器を提供するミウラグループでは、薬剤を使用せず、独自開発のフィルタでバラスト水に含まれる微生物を捕捉し、紫外線で殺滅する仕組みを最大の特長としています。現在、世界の主要港にメンテナンス網の整備を順次行っています。

ミウラのバラスト水処理装置による海洋保全



北米で貫流ボイラをスタンダードに

北米の主流である効率の低い炉筒煙管の大型ボイラから、MIシステムによる貫流ボイラへの入れ替えを推進しています。また、アメリカは世界一環境基準（NOx値等の排出規制強化）の厳しい国と言われていますが、それに対応できるミウラの技術で他社との優位性を確立しています。



未来の地球環境を守る

ミウラグループは、熱・水・環境の分野において、お客様の環境負荷低減のお役に立ち、地球環境の明るい未来に向けて、開発、製造、販売、メンテナンスを提供し続ける企業でありたいと考えています。

国内で培ったミウラグループならではの強みを活かし、グローバル化を加速させ、世界中のお客様にご満足をお届けできるベストパートナーとして、これからも戦略的に海外展開を進めます。

グローバル化への歩み

ミウラは1968年に『世界一安くて良いボイラを創ろう』を宣言し、世界を見据えて取り組んできました。

1959年～海外への一歩

- 1959年 ● 創業者三浦保が三浦工業の前身となる三浦製作所を設立し、同年から貫流ボイラの量産をスタート
- 1964年 ● 台湾に向けてボイラを初輸出
- 1969年 ● 三浦保が初渡米し、アメリカのマーケットを視察
- 1973年 ● 韓国での市場調査
- 1976年 ● フィリピンのマニラに駐在所を開設

1978年～輸出へ本格的な取り組み

- 1978年 ● 輸出拡大を目的に、海外事業部を発足
- 1979年 ● マレーシアのボイラ企業とノックダウン輸出の技術提携契約を締結
- 1980年 ● スペインのボイラメーカーと貫流ボイラの技術供与契約を交わし、EH型とFH型の技術輸出を開始
- 1981年 ● 台湾に連絡事務所を開設

1982年～輸出から現地生産に

- 1982年 ● 韓国・仁川に生産・販売の合併会社を設立（1989年に天安工場が操業開始）
- 1987年 ● カナダに合併会社を設立し、1988年から生産開始（1992年に全額出資の生産子会社化）
- 1988年 ● 台湾に生産・販売の合併会社を設立 ※台北本社、新営工場
- 1991年 ● アメリカに販売子会社を2社設立（シカゴとロサンゼルス）
- 1993年 ● 中国・上海に現地「国営ボイラ工場」と、生産・販売の合併会社を設立
- 1996年 ● シンガポールに駐在所を開設

2004年～海外事業の再構築

- 2004年 ● 中核事業を三浦工業、三浦プロテック、三浦インターナショナルの3社に分社 ※2004年を海外事業中興の年と位置づけた
- 2004年 ● 中国・蘇州に100%出資子会社を設立
- 2006年 ● ベトナムにマルセ工販との合併会社を設立（メンテナンスと薬品の製造・販売）

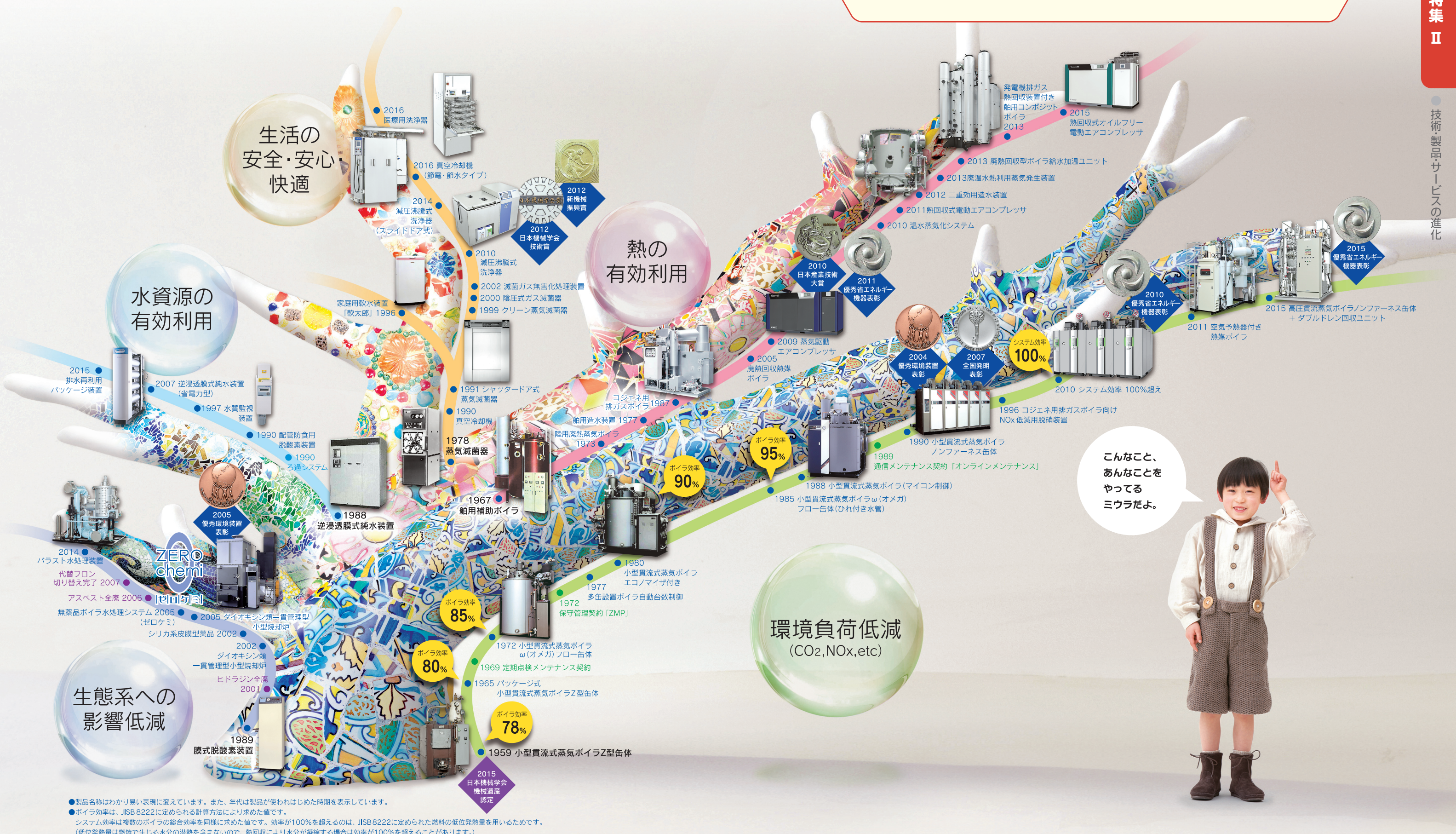
2008年～グローバル企業への挑戦

- 2008年 ● 中国・上海の合併会社を中国・蘇州の会社に吸収合併
- 2008年 ● 中国の国家プロジェクト（省エネと環境改善関連で2件）の技術協力を締結
- 2008年 ● シンガポールに全額出資の販売会社を設立（船用拠点としても活用）
- 2008年 ● アメリカ・アトランタに全額出資の製造会社を設立（南米への輸出を視野）
- 2009年 ● インドネシアに製造・販売会社を設立
- 2011年 ● メキシコに販売会社を設立
- 2012年 ● ブラジルにメンテナンス会社を設立（2016年に生産工場が操業開始）

- 2012年 ● オランダに船用の拠点として駐在所を開設（2014年に販売・メンテナンス会社を設立）
- 2013年 ● インドネシアの工場が完成し、操業開始
- 2013年 ● 韓国の天安新工場が完成し、操業開始
- 2014年 ● タイに販売・メンテナンス会社を設立
- 2015年 ● トルコに販売会社を設立
- 2015年 ● 台湾の新築移転した工場が操業開始
- 2015年 ● マレーシアに駐在員事務所を開設

ミウラの環境貢献の進化—技術と製品とサービス—

ミウラは、省エネ性能に優れ、環境にやさしい製品を社会に広めることがエネルギー問題や環境問題の改善に役立つことだと考え、変化し続ける地球環境に対応し、進化、成長していきます。



社会から信頼される環境に配慮した製品を創出

ミウラは「熱・水・環境のベストパートナー」として、環境にやさしい社会の創造と、より安全で豊かな暮らしに貢献するために、熱・水・空気・電気すべての資源を有効に効率的に使える提案をし、お客様の抱えられている問題を解決する製品、サービスをお届けします。

医療現場の高品質な洗浄に貢献

医療用洗浄器

お客様のご要望をもとに、コンパクトで大容量のシャワーポンプと、国内初のマルチ超音波洗浄システムを搭載した新型医療用洗浄器です。高い洗浄力と省スペースを実現しました。



2016年4月発売

省エネに貢献

熱回収式電動エアコンプレッサ

オイルフリーの高品質エアを供給し、かつ廃熱として捨てられていた圧縮熱（高温圧縮空気）から温水を作りだす装置です。ボイラ給水加温などに使用することにより、燃料使用量を低減します。



2015年4月発売

急速冷却により食の安全に貢献

真空冷却機

冷却槽内の加熱殺菌機能を追加し、衛生面の改善を図りました。また高効率インバータチラーの採用による省電力、真空ポンプの封水量の最適化による節水を実現し、環境負荷低減に貢献しています。



2016年4月発売

省エネ・省資源に貢献

高効率熱媒ボイラ

レキュペレータ搭載で排ガスの熱を回収して、燃料使用量及びCO₂排出量を削減します。また、台数制御と組み合わせることで、さまざまな負荷要求にも対応できます。



省エネに貢献

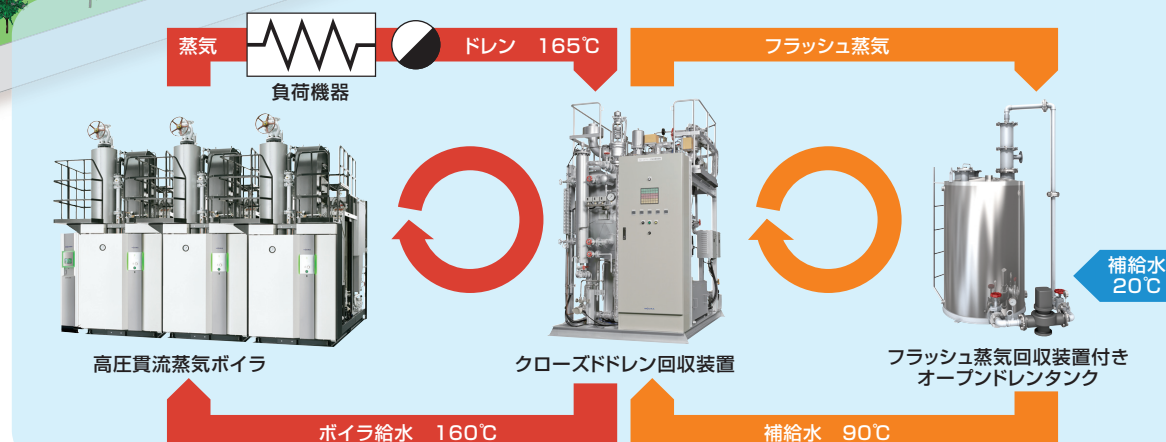
高圧貫流蒸気ボイラ + ダブルドレン回収ユニット

これまで捨てられていた熱エネルギーを最大限回収するシステムと、高効率のボイラを組み合わせることで、熱エネルギーを無駄なく使い燃料使用量を低減します。
※第36回優秀省エネルギー機器「日本機械工業連合会会長賞」受賞（2016年2月）
（28ページに関連記事を掲載しています。）

設計者の声

諸先輩が改良に改良を重ねてトコトンまで効率を高めた高圧ボイラに、クローズドドレン回収という分野で自分のアイデアを注ぎ込み、ボイラシステム効率を飛躍的に高めることに成功しました。今後も人とは違った視点で、省エネに取り組みたいです。

熱機器特需部
チーフエンジニア
畑中宏之



- 蒸気ライン
- 水ライン
- 温水ライン
- 通信ライン
- 圧縮空気
- 油ライン

環境に配慮した製品の導入事例(国内)

膜式純水装置で劇物の削減! 三好化成工業株式会社様



お客様の声 工務グループ部長 間瀬 文昭様

イオン交換式純水装置を使用していた時は、塩酸と苛性ソーダをFRPタンクで貯蔵していました。FRPタンクも減肉するため補修しながら使用していましたが、流出などが発生しましたら、地域社会への影響や環境負荷も大きなものとなります。

そういう意味合いから劇物を減らしたいという思いが強く、膜式純水装置の検討を開始しておりましたところ、ミウラには以前よりボイラ、クーリングタワー、水処理装置、廃熱ボイラなどをすべてお任せしており、薬品の補充も定期的に行っていたというお付き合いから、膜式純水装置に関しても合わせてミウラにお願いすることにしました。

また、装置導入を検討中に愛知県の指導により工業用水を切り替えたところ、珪藻類が多く含まれていることが判明し、大型ろ過機の追加など急ぎょ仕様変更が必要となりました。ミウラには随分と無理をきいていただき、無事工事が完了しホッとしています。

これからもミウラによるワンストップサービスの恩恵を受け、安心して運用を続けていけるものと考えています。



純水ユニットWJ型



三好化成工業株式会社様プロフィール

塗料業界トップの関西ペイント株式会社とパインケミストリーのリーディングカンパニーであるハリマ化成株式会社の2大化学会社の技術を基に、関西ペイント株式会社、ハリマ化成株式会社、旧日商岩井株式会社の3社の合併会社として、1968年2月1日に設立されました。

自動車用塗料をはじめ、工業用、建築用、一般用などあらゆる分野の塗料原料として使われている塗料用樹脂を製造されており、人と地球環境にやさしい製品を供給することにより社会に貢献し、自然環境との調和及び地域社会との共生を大切に、環境管理活動を推進されています。

営業担当者の声 アクア名古屋営業課 篠原 正人



三好化成工業株式会社様では、以前より、貫流ボイラ、廃熱ボイラをご使用いただいております。保守契約を評価いただけていました。そんな折、環境貢献というお客様のコンセプトの力になりたいと、特機三河メンテの宮城係長との共同ワークで、既設のイオン交換式純水装置に使用している劇物をなくす提案をさせていただきました。導入にあたっては、集中監視装置に純水装置を取り込むことで「見える化」も実現でき、お客様の「ありがたい姿」に少しでも近づける提案ができたことがとてもよかったと感じています。

2台の蒸気駆動エアコンプレッサが省エネに大活躍! 丸善食品工業株式会社 本社工場様

お客様の声 常務取締役 保坂 和人様

本工場では、機械の動力やエアコンプレッサ駆動のために電気を使用しています。一方、食品の殺菌のため、都市ガスを燃料としたボイラから蒸気も発生しています。

これまで、電気と蒸気は別々に供給されてきましたが、これらを組み合わせ、トータルのエネルギーを削減する装置として蒸気駆動エアコンプレッサ(SDC)を採用しました。

高圧ボイラとSDCの組み合わせは、2013年1月に1台目が稼動し、さらに2016年2月に2台目の運転が始まりました。

この間トラブルもなくエネルギー削減に大いに役立っています。

今後も機械販売だけでなく、サービスの供給や提案企業としてのミウラに期待しています。

営業担当者の声 長野広域営業所 所長 佐藤 康太

丸善食品工業株式会社様では、以前より高効率蒸気ボイラをご使用いただいていたのですが、本社工場では蒸気駆動エアコンプレッサ×2台、富士小山工場ではボイラ給水加温ユニットVHをご採用いただいています。常に工場内の保全、省エネを考え工夫をされるお客様の姿勢に私自身驚かされ、勉強させていただくことが多くあります。

今後もミウラを選んでよかったと思っていただけるようなご提案と、情報提供を心がけていきたいと思っています。



丸善食品工業株式会社様プロフィール

昭和36年の創業以来、食文化の創造という夢を着実に実現し、清涼飲料、野菜・果実飲料、レトルト食品などの幅広い商品を生産されています。



環境に配慮した製品の導入事例(海外)

中国の青空のため 華潤雪花ビール(無錫)工場様

華潤雪花ビール様は、世界のトップ500社に名前の挙がる華潤集団傘下のビール会社で、中国で90社近くの製造工場を所有し、販売量は世界一です。

華潤雪花ビール(無錫)工場は江蘇省の主力工場として、年間20万klの生産量を誇っています。これまで石炭ボイラ(蒸発量10t/h)×2台(うち、1台は予備)を使っていましたが、効率が低く、排出も政府の基準値を満たせませんでした。2015年初めに、同社は、無錫市の石炭改造対象の第一号になり、ガス化の入札に踏み切りました。ミウラは、この入札で高効率ボイラの提案を行い、2015年半ばには、CZI-2000GU×7台(うち、2台は予備)を導入いただきました。稼動してたった半年で、運転効率が非常に高く、省エネが著しいという結果を出し、



改造前



改造後

CZI-2000GU×7台



お客様の声 無錫工場製造部 経理(製造部責任者) 郁 磊様

ミウラボイラは操作が簡単で、運転効率がよく、以前の石炭ボイラと比べると、ボイラスタッフの件費が削減できました。このボイラは、ミウラのオンラインセンターと24時間接続しているため、もし何か問題が発生してもすぐに解決できるので、とても安心です。工場内の環境も改善され、こんな優秀な商品は中国全土にもっと広がってほしいと思います。

カリフォルニア州のNOx対策に貢献! American Textile Maintenance Company様

American Textile Maintenance Company様には、2010年にミウラのボイラを導入いただきました。ロサンゼルス内の計4カ所の工場にて、LXをはじめとする8台の低NOxボイラを組み合わせて使用されています。

カリフォルニア州は世界でも最も厳しいNOx規制を持つ地区であり、多くのボイラではこの規制に適応するために複雑かつ高価な改造が必要になります。

ミウラはノンファーネス缶体と大型予混合バーナ技術をボイラに標準装備しているため、同州の規制レベルもクリアしています。American Textile Maintenance Company様は規制遵守期限よりも早く低NOxを達成し、市や州の検査官にミウラボイラの研修を行うなど、環境に優しい事業を拡大され続けています。

また、MISシステムと連動した薬品投入システムによって蒸気要求に合わせて薬品を注入することで、薬品量の低減、ひいては環境負荷低減に貢献しています。



お客様の声 チーフエンジニア グレグ・アギラール様

以前使っていたボイラでは、起動の2時間半前には出社しなければならず、膨大な時間、エネルギー、ガス等の無駄がありました。今はそれがなくなり、ガス、エネルギー、水、すべてのコストが削減できました。また、ミウラボイラ導入により、ボイラ室全体に合わせて貯蔵施設の使い方を見直すことができました。現在では、空いたスペースにトンネル式乾燥器を設置して有効活用しています。



環境マネジメント

担当取締役のコメント

国内では、低炭素社会の実現に向けて、2030年度の削減目標（2013年度比26%削減）をはじめ、再生エネルギーを利用した電力自由化や建築物省エネ法など、大きく変化しています。また、海外では、COP21（国連気候変動枠組条約第21回締約国会議）における新たな枠組みにより、環境保全の变革が進んでいます。

私たちミウラグループは、地球規模で直面している環境問題に真摯に向き合い、環境保全活動の推進を強化していきます。

環境報告のページでは、ミウラグループの省エネと環境保全に関する取り組みをご紹介します。



EMS※トップマネジメント
取締役 常務執行役員

山下 聖吾

※EMS：Environmental Management System
（環境マネジメントシステム）の略称です。

ミウラグループ環境方針

基本理念

ミウラグループ（以下「当社」という）は、熱・水・環境の分野で、世界を舞台に、資源の有効利用と環境に優しい社会の創造に貢献します。

基本方針

熱・水・環境の分野における事業活動を通じ、以下の方針に基づいて、地球環境との調和を目指した環境管理活動を行います。

- 1 環境側面から環境に与える影響をとらえ、環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善を図ります。
- 2 環境目的、目標は、社員一人一人が身近に参加でき、その総和が環境負荷低減につながる活動を優先的に取り上げます。
- 3 環境側面に適用される環境関連法規及び当社が同意するその他の要求事項を遵守し、汚染の予防に努め、自然との共生を図ります。
- 4 事業活動から環境に与える影響のうち、次の項目を重点的に取り組みます。
①省エネ・省資源・環境改善イノベーション技術の開発を図る。
②エネルギーの有効利用を図る。
③資源のリユース及びリサイクルを通じて廃棄物の排出量を削減する。

環境中期計画

環境中期計画は、環境方針に沿って4つの環境目的を掲げています。年度ごとに自己評価を行い、継続的に改善しています。

I 製品による環境貢献

…環境に配慮した製品を開発する。

II 環境に対する配慮

…汚染の予防と化学物質管理の推進を図る。

III 自然との共生

…環境保全活動を通じ自然との共生を図る。

IV 資源の有効利用

…エネルギーの有効利用と排出物のリユース、リサイクルの促進、資源の有効利用を図る。

● 環境マネジメントシステムと4つの環境目的



▼ 2012（平成24）年度～2017（平成29）年度の計画

環境目的		取組項目／実施内容	自己評価 2015年度	2015年度実績 参照ページ
I 製品による 環境貢献	環境に配慮した 製品開発	廃熱、温水・ドレン水の活用に貢献できる製品を開発する。	○	P11～P14 特集Ⅲ： 『製品による環境貢献』
		電力・燃料・水の使用の削減に貢献できる製品を開発する。	○	
		無薬注による水処理の促進に貢献できる製品を開発する。	○	
		河川・海洋汚染の抑制に貢献できる製品を開発する。	○	
II 環境に対する 配慮	汚染の予防活動	ばい煙発生設備の定期的測定を実施し、大気汚染防止に努める。	○	P19 『汚染防止の取り組み』
		定期的な水質調査を実施し、水質の汚濁防止に努める。	○	
		定期的な騒音測定を実施し、騒音の発生防止に努める。	○	
		環境パトロールや製造機械の環境審査を実施し、緊急対応手順による監視を行う。	○	
	化学物質管理の 推進を図る	グリーン調達ガイドラインの草案を整備する。	—	P20 『自然との共生』
		化学物質情報共有の仕組みづくりをする。	—	
III 自然との 共生	環境保全活動を通じ 自然との共生を図る	毒物及び劇物の運用監視のための内部監査を実施する。	○	
		工場周辺の清掃活動を実施する。（年4回）	○	
		工場周辺の河川清掃活動を実施する。（年2回）	○	
IV 資源の 有効利用	エネルギーの 有効利用を図る	工場内、屋上の緑地を維持管理する。	○	P21 『省エネルギーの 取り組み』
		ISO14001認証サイト内のエネルギー使用量（原油換算）の削減のための省エネ施策を立案する。（毎年度向こう5ヵ年分）	△	
		エネルギー使用量（原油換算）の国内売上原単位※1前年度比で年1%削減する。	×	
	工場内の排出物の リユース及びリサイクル の促進を図る	工場再編、部門移動に応じた計測メーターの設置と計測を行う。	○	P22 『省資源の取り組み』
		エネルギー管理要領及び管理手順書に基づく運用管理を実施し、状況に合わせて見直しを行う。	○	
		工場内の排出物の総排出量※2を国内売上原単位※1前年度比で年1%削減する。	×	
		リユース率、リサイクル率の向上を図る。	○	
	資源の有効利用を図る	紙使用量の削減（使用量＝購入量として、2009年度国内売上原単位※1比を維持する。）	○	

【自己評価の基準】 ○…計画通り実施できた。 △…一部できていないところがある。 ×…計画通り実施できなかった。 —…現状維持管理

※1 国内売上原単位：電力や燃料、その他のそれぞれの使用量（購入量）を国内売上高で除した値です。
※2 総排出量：ISO14001認証サイトにおける事業活動で生じた廃棄物や有価物、並びにリユース物の合計値です。



朝、夕飯の下ごしらえと洗濯をしておいて、夜は子どもと9時には夢の中。いつの間にか朝チャレ中です！早寝早起きで、気分も爽快です。
※朝チャレは環境省が推奨するアクションのひとつで「早寝早起きの毎日で、夜間CO2を削減。」することです。食機・メディカル事業本部 三上優子



照明は、こまめに消すスイッチにたどりつくまで足元が不安です。特に身近にお年寄りがいるかたは、LEDセンサライトを設置してさああげては、いかがでしょうか？

品質保証部 仙波孝治



環境管理活動

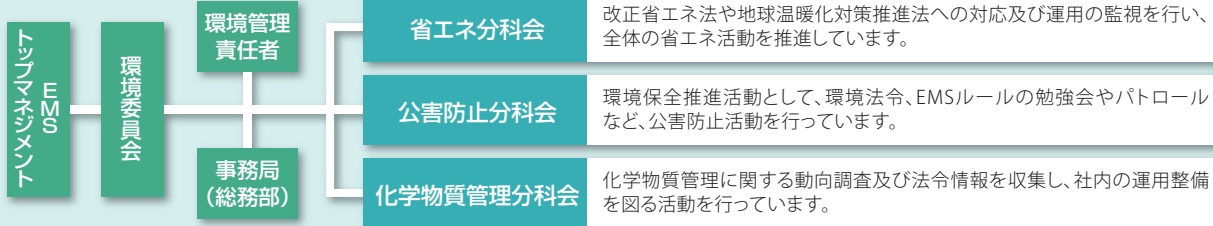
基本的な考え方

ミウラグループは、熱・水・環境の分野で、世界を舞台に、お客様の環境負荷低減にお役に立つとともに、私たち一人ひとりが、企業活動における環境課題を認識し、資源の有効利用をはじめ環境にやさしい社会の創造を果たしていくために、環境方針ならびに4つの環境目的を推進しています。(15ページと16ページに掲載しています。)

推進体制

環境マネジメントに関する課題の審議を行うため、環境委員会を定期的に開催しています。

推進体制図



外部認証機関による監査の結果

国内のISO14001認証サイトは、2015年10月に更新監査、及び、2014年10月より生産を開始した三浦アクアテック 薬品工場を認証範囲に追加するための拡張監査を受けました。今回の監査による指摘事項は11件で、内訳は観察事項1件、改善の機会10件でした。指摘事項のうち全体または部門で対応が必要と判断したものは改善を指示し、すべて完了しました。なお、監査報告書では「結論として、監査結果はマネジメントシステム認証に対して満足なものでした。」とのコメントをいただきました。

海外の現地法人では、ミウラ韓国が更新監査、ミウラ台湾とミウラ蘇州が定期監査を受け、認証継続が承認されました。



三浦アクアテックの監査風景

環境コミュニケーション

▼ 近隣住民への対応

2015年度は、近隣住民からの苦情等はありませんでした。

▼ 行政及び地域への情報提供

2015年10月に、愛知県県議会の環境委員会のメンバーの議員13名が来社されたので、工場における環境貢献活動について説明を行いました。

環境保全活動への取り組みと環境に配慮した製品による貢献について評価され、2015年11月に、一般社団法人日本産業機械工業会様の取材を受け、2016年2月発行の『日本産業機械工業会 環境委員会 環境活動報告書2015』に本社工場の環境活動への取り組みが掲載されました。



『日本産業機械工業会 環境委員会 環境活動報告書2015』

目指せエコピープル

エコピープルとは、東京商工会議所主催の環境社会検定試験(eco検定)に合格し、エコ活動を行っている人のことです。

ミウラは熱・水・環境に関する製品及びサービスを提供する企業として、環境意識を高め、地球環境にやさしい企業を目指すために、eco検定の受験を推奨しており、2015年度末時点で、1,886名(国内の従業員のおよそ2人に1人)がエコピープルです。

入社1年目の正社員及び準社員を対象に、合格者の受験料を

会社が負担する社内制度を設け、エコピープル誕生を応援しています。これにより、新たに37名がエコピープルとなりました(入社前にeco検定に合格していた者を除く)。ますます環境負荷低減に対する社会的要求が強まる中、高い環境意識を持ってこれからのミウラを牽引していく存在となってくれることを期待しています。

また海外現地法人の従業員も、日本のエコピープルをお手本にして、エコ活動に取り組んでいます。

通勤時、車の燃費があがるようにアイドリングストップをこまめに心がけています！
今の車はエコドライブ度の採点がされるため楽しみながら通勤しています。

アクア事業本部 山内菜摘



環境教育と訓練

基本的な考え方

「企業は人なり」と言われるように、環境保全活動も人づくりを重要なプロセスと位置づけ、EMS(環境マネジメントシステム)の基本的な考え方(身近でできることから始める大切さと、一人ひとりの総和が環境負荷の低減につながる活動)について、従業員をはじめ、入場される取引先にも協力をいただき、環境意識の啓発を進めています。

環境教育

環境問題に対する意識づけとEMSについて周知させるために、ISO14001認証サイト内の全従業員に、EMS一般教育の受講を義務づけています。

毒物及び劇物の取り扱いや排水処理などの専門教育では、環境汚染の予防を含め、専門知識と社内ルールについての

教育を行います。これらの教育では修了試験に合格した者のみが関連業務に携わることができます。

その他、工場や職場単位で随時省エネ教育や環境パトロールを実施し、環境意識の啓発に努めています。

【主な環境教育と実施実績】

区分	〈教育名〉教育内容	対象者	実施実績【受講者数】
一般	＜EMS一般教育＞ ミウラグループのEMS活動について 部門で展開する具体策	新卒及び中途入社ならびにISO14001 認証サイトに異動してきた未受講者	新入社員研修、e-ラーニングまたは部門単位で 実施【144名】
専門	＜毒物及び劇物取扱教育＞ 毒物及び劇物の法規制と取り扱い及び管理に関する 社内ルール	業務で毒物及び劇物を取り扱う者 (毎年1回必須) ※未受講者は毒物及び劇物の取り扱い不可	5月(定期)、随時(新規取扱者)e-ラーニング または集合教育【415名】
専門	＜法令管理データベース教育＞ 法令管理データベースの目的・使用方法	新任役職者	新任役職者研修で実施【104名】
専門	＜排水処理教育＞ 排水基準、グループ内基準の周知、緊急時の対応など	堀江・北条地区関係部門の未受講者	6月、12月にe-ラーニングまたは集合教育【80名】 三浦マニファクチャリング【6名】
専門	その他	必要に応じて決める	省エネ勉強会【11名】など

緊急時の対応訓練

緊急時の対応訓練は、緊急時に適切な対応ができるように油漏れ緊急対応訓練や、防火避難訓練など定期的に行っています。

工場や実験設備では、緊急事態(自然災害や事故など)が発生した場合に、環境に著しく影響を及ぼす可能性があると考えられる設備を特定し、それらの設備に携わる作業者を中心に現場での実技を取り入れながら実践的な訓練を行っています。訓練後は緊急対応手順に問題がなかったか検討し、必要に応じて見直しを行います。



排水漏洩対策訓練



訓練後のレビュー

【主な緊急対応訓練と実施実績】

区分	〈訓練名〉訓練内容	対象者	実施実績【受講者数】
訓練	＜著しい環境影響を及ぼしうる設備の緊急対応訓練・シミュレーション＞ 設備の緊急対応/復旧手順の説明と訓練(部門間をまたがる訓練・シミュレーションを含む)	設備使用部門の担当者	ガス漏れ対応訓練【4名】 実験場設備緊急対応訓練【15名】 排水漏洩対策訓練【6名】 試作室設備緊急対応訓練【7名】など
訓練	＜燃料講習・油漏れ緊急対応訓練＞ 油漏れ発生時の緊急対応手順書の説明及び実技訓練	燃料取扱者	本社工場【38名】 三浦マシン：試運転時の油漏れ訓練【1名】



特機事業本部 公原裕臣



汚染防止の取り組み

基本的な考え方

環境側面に適用される環境関連法規及び当社が同意するその他の要求事項を遵守し、汚染の予防に努めます。製品の開発や製造、環境分析などで使用する化学物質の管理体制を確立し、自然災害などの緊急事態でも周辺の環境を汚染しないように努めています。

三浦マニファクチャリングの油漏れリスク対策

これまでの切削工程では、油がついた切粉により、床へ油が付着したり、保管用ドラム缶に油が溜まるなど、取引先様が持ち帰った後、積み替え作業による油漏れリスクがありました。しかし、切粉破碎処理システムでは、切粉についた油分は分離してそのままポンプで油送、切削工程内で再利用し、切粉は圧縮することができます。これにより、油漏れリスクの軽減と、切粉の保管場所の縮小を実現することができました。



排出された切粉



切粉破碎処理システム

分析排水の中和処理と漏洩防止

ボイラや水処理機器の維持管理に係る水分析に使用したpHの高い試料は、そのままでは公共下水道に流すことができません。科学分析センターの緑地には地下タンクが設置されており、炭酸ガス中和装置により中和処理を行った後、公共下水道へ排出します。

また、緊急時には地下タンクから公共下水道への出口バルブを遮断し、漏洩を防止する構造になっています。



自社製の炭酸ガス中和装置

VOC取扱量の削減

図の通り2007年度が減少しているのは、北条地区へ移転したのを機に、三浦マニファクチャリングが有機溶剤を使用しない粉体塗装にライン変更したことによるものです。この変更によりVOC※1取扱量をそれまでの約40%まで減少させることができました。

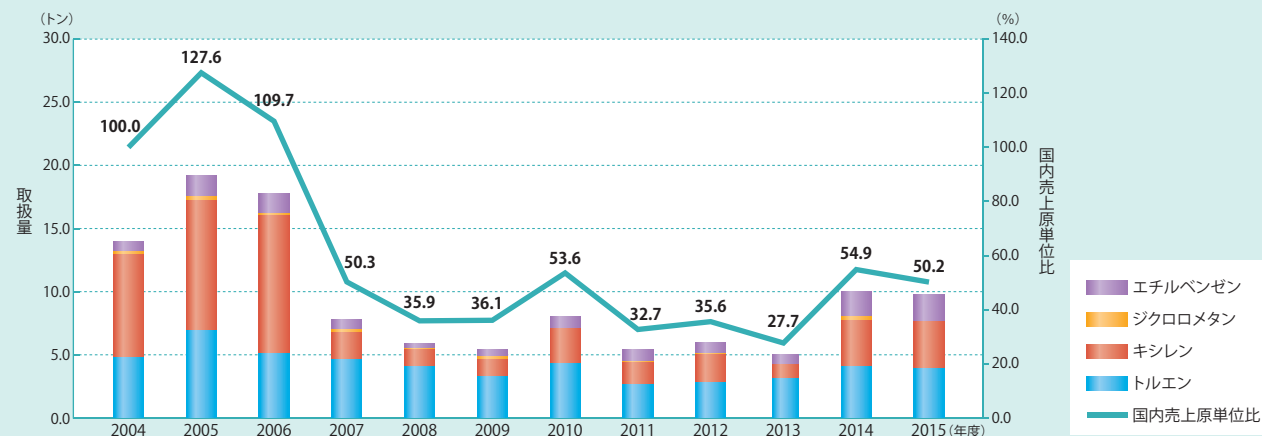
一方、2010年度が増加したのは、それまでISO14001認証サイト外で操業していた三浦アクアテックが北条地区に移転してきたことによるものですが、2011年度からは塗料を水性

に切り替えてVOCの削減を図っています。

2014年度が増加したのは、ISO14001認証サイト外で操業していた三浦精機が北条地区に移転してきたことによるもので、2015年度は取扱量を減少させました。今後も削減に向けて取り組んでいきます。

※1 VOC: Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物) の略称で、塗料やシンナーなどに含まれるトルエンやキシレンが代表的です。大気中の光化学反応により、光化学スモッグを引き起こす原因物質の1つとされています。

● VOC取扱量と国内売上原単位※2比推移 集計範囲は、PRTR法定期報告対象の本社地区と北条地区としています。



自然との共生

基本的な考え方

地球環境との調和を目指した環境活動の一環として自然との共生に努めています。その活動は、社内にとどまらず、周辺地域の環境保全や、もっと広い視野で「従業員一人ひとりが身近に参加でき、その総和が環境負荷低減につながる活動」に取り組んでいます。

自然との共生活動

工場で長年使用し古くなったり、破損などにより修理することができなくなったパレットや、工場緑地美化作業での樹木の剪定屑を、木材粉砕機によりチップ化し、工場内緑地に敷き詰め有効利用をしています。

これにより工場から出る廃棄木材の排出量を低減させることに役立っています。生まれ変わった木材チップからはとても心地よいフレッシュな香りを出し従業員の心を癒してくれます。緑地に敷詰めた木材チップは、夏場に多く発生する雑草を抑える効果があり、土壌の乾燥を防止し、保水に効果があります。

また、冬場は土壌の保温効果があり樹木の育成保護に役立ちます。この木材チップは年数とともに堆肥化し、微生物の働きにより分解され良い土壌になり自然に還ります。

2015年度は20トンもの廃棄木材をチップ化し、工場緑地に敷き詰め活用しています。



工場緑地

排水処理設備横のビオトープ

2015年3月に完成した北条地区の排水処理設備横のビオトープでは、水面や周りに配した植物が少しずつ増えてきました。6月にはかわいらしいハスの花が初めて咲きました。仕事の行き帰りにメダカの様子を見に来る従業員もいて、工場の中で着実にファンを増やしています。これからも試行錯誤しながら自然との共生を楽しんでいきたいと思っています。

ビオトープ製作者の声

自然環境との調和を目的としたビオトープは、工場にお越しのお客様をはじめ、従業員に、自然環境に親しむ空間を創出したいという思いで、製作に携わりました。

三浦環境マネジメント
グリーンサービス課
砂本正樹

排水の監視も担うビオトープ

愛媛県「愛リバー・サポーター制度」への協力

毎年、春と秋に本社、北条のそれぞれの工場周辺を流れる川で、ごみの回収と川の環境保全を行っています。

休日を利用して実施しているこの活動は、愛媛県の推進する「愛リバー・サポーター制度」に登録しており、社内でボランティア参加者を募って実施しています。

従業員一人ひとりが身近に参加できる活動の一環として、今後も継続していきます。



休日に実施している工場周辺の河川清掃



省エネルギーの取り組み

基本的な考え方

私たちの生活に欠かせないエネルギーを、いかに無駄なく有効に利用していくかということについて、「ミウラグループの従業員一人ひとりが自ら考え、できることから行動する」を基本とし、日々の業務、従業員間のコミュニケーションから、よりよい省エネ活動を展開しています。

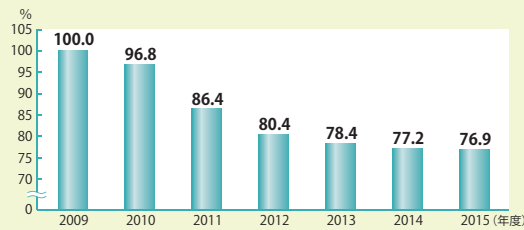
エネルギーの有効利用

目標 エネルギーの削減目標

2009年度国内売上原単位※1比で **6% 削減**

※国内売上原単位：エネルギー使用量やCO₂排出量を国内売上高で除した値で、2009年度の値を100%として比較しています。

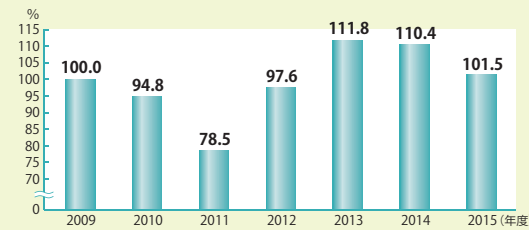
● エネルギー使用量(原油換算)の国内売上原単位比推移



集計範囲は、省エネ法定定期報告対象のミウラグループとしています。
エネルギー使用量については、新型ボイラの研究開発のための燃料使用量が増加したことにより、国内売上原単位比は2014年度並みにとどまりました。
一方、CO₂排出量については減少していますが、これは「電気事業者別排出係数」に影響されたためです。

実績 エネルギーの削減実績

2009年度国内売上原単位比76.9%で **23.1% 削減**

● CO₂排出量の国内売上原単位比推移

省エネ活動事例

▼ LED照明の導入と紐スイッチ化

ミウラグループでは、順次LED照明の導入を進めています。そして、LED照明導入の際には、必要なところだけ照明を点灯できるように、紐スイッチも導入しています。壁スイッチだけの点灯方式では、間引くことでしか部分消灯をすることができませんでしたが、紐スイッチを取り入れたことで、必要に応じて点灯や部分消灯が可能になり、より大きな節電効果を得ています。

また、ミウラグループでは『建築設計基準書』を作成し、設備の仕様を標準化しています。この中で、LED照明と紐スイッチの導入を設計基準として定めています。



紐スイッチ導入事例

▼ コンプレッサの運転方法と周波数変換器の起動時間の変更

自動運転を行う設備には、休日でもエアの供給が必要でしたが、必要量を確認し、適正なコンプレッサの稼働台数を検討、見直した結果、稼働台数を削減することができました。

また、周波数変換器の起動時間をわずかながらも遅らせることにより、一日の使用時間を減少させました。

合わせて年間約70,000kWhの電力削減につながりました。

エネルギー管理優良工場表彰受賞

▼ 三浦工機株式会社

三浦工機はこの度、四国管内における『エネルギー管理優良工場』として四国経済産業局長表彰を受賞しました。一度、平成25年に電力活用優良工場として四国地方電力協議会会長表彰を受賞していますが、今回の賞はそれを上回る非常に名誉な受賞です。エネルギー管理優良工場における受賞までの過程は、四国電力宇和島支店様による使用電力実績推移の評価、推薦、約半年間に及ぶ推薦調書作成と経済産業局による現地審査、と非常にハードルの高いものでした。これまでミウラグループの一員として本社指導のもと、省エネ分科会活動を通じ省エネ活動に取り組んできたことが評価されての受賞と考えています。

活動としては、省エネ機器や機械設備の入れ替えや導入を総務や生産技術課を中心に積極的に行っており、実績として売上高をベースに、電力、燃料の使用量を原油換算した原単位数値を2009年度以降下げています。

2016年度は新工場本稼働や既存工場生産ライン拡張などで使用電力が上がると予測しています。今後も設備関連の省エネはもちろんですが、全従業員の省エネに対する意識と日々の節電行動を高め、物、人の両方向から全社で省エネ活動に取り組めます。



表彰式

圧力鍋を使っています。ごはんも野菜も時短でおいしく料理できます。
野菜の皮も食べるようにしてゴミを出さないようにしています。
また、エコバックや自宅では人感センサー付きLEDライトを利用しています。

船用事業本部 ビュゾン美枝



省資源の取り組み

基本的な考え方

「混ぜればごみ、分ければ資源」を基本としています。従業員はもとより、工場に入場される取引先にも協力をいただきながら、分別をしっかりと行い、見える化を進めていくことで、さらなる意識の向上と3R(リデュース・リユース・リサイクル)を展開しています。

総排出量の削減

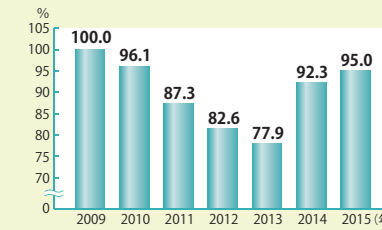
目標 総排出量※1の削減目標

2009年度国内売上原単位※2比で **6% 削減**

※1 総排出量：国内のISO14001認証サイトにおける事業活動で生じた廃棄物や有価物、並びにリユース物の合計値です。

※2 国内売上原単位：総排出量やリユース量、OA紙購入量を国内売上高で除した値で、2009年度の値を100%として比較しています。

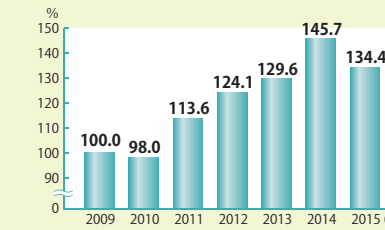
● 総排出量の国内売上原単位比推移



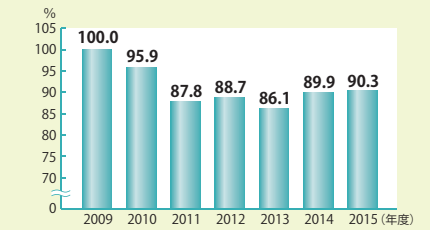
集計範囲は、ISO14001認証サイト(本社地区及び北条地区)としています。

総排出量の国内売上原単位比は、2014年度後半の北条地区への工場移転の影響のほか、2015年4月の製造会社統合に伴う設備の処分などにより2014年度より増加しました。

● リユース量の国内売上原単位比推移



● OA紙購入量の国内売上原単位比推移



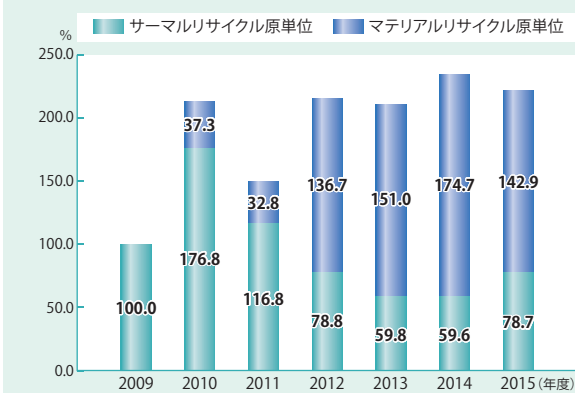
資源の有効利用

プラスチックごみのうち、リサイクルできるものは、「サーマルリサイクル」と「マテリアルリサイクル」の2種類の方法でリサイクルしています。

「サーマルリサイクル」は、RPF(紙や木、廃プラスチックから製造された固形化燃料)の原料に使用され製紙会社のボイラの燃料になります。一方、「マテリアルリサイクル」は、プラスチックの形状や色などを細かく分別することによって、資源として有効に利用できます。

2010年4月からは、社会全体での費用対効果を見極めながら、資源としてより有効に利用できる「マテリアルリサイクル」への転換に取り組んでいます。

● リサイクルプラスチック排出量の国内売上原単位比推移



2009年度を基準年として、集計範囲は、本社地区及び北条地区としています。
2009年度までは、すべて廃棄物として処分していました。

水資源の有効利用

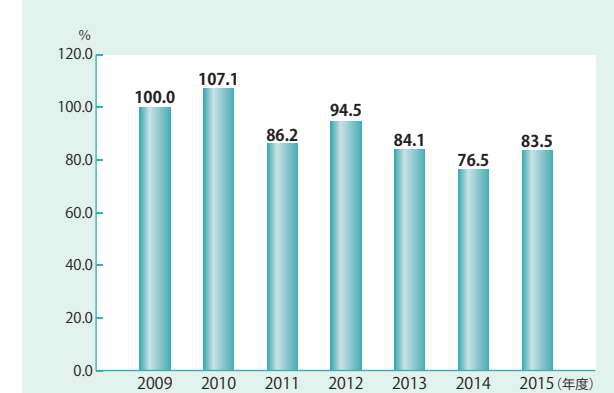
松山市の水不足事情により、使用する水は井水を原水としています。とくに、三浦アクアテックでは、水処理装置(自社製品)を用いて、原水を使用用途に適するように処理した後、各ポイントに供給しています。工場で使用した水の一部はリユースしたり、屋上緑化の散水にも利用するなど環境にやさしい工場を目指しています。

工場敷地内の緑地への散水は、雨水や井水を利用しています。また、松山市の雨水利用の促進を図るための「雨水利用啓発モデル事業」のモニター企業として雨水タンクを設置し、散水などに使用しています。



雨水タンク

● 水使用量(上水+井水)の国内売上原単位比推移



2009年度を基準年として、集計範囲は、本社地区及び北条地区としています。
北条地区への工場移転と研究開発のために、2014年度より増加しました。



エコピールのつばき



エコピールのつばき

実家を出て5年経ちましたが、未だに実家にはエアコンがありません。毎年お盆はよはずと扇風機で過ごしています。東京でもすだれを使って快適な生活を送っています。

新事業本部 大滝欣也



国内営業・メンテ拠点におけるCSR活動

基本的な考え方

ミウラは拠点における営業担当者やサービスエンジニアの日々の活動を通じて、お客様が抱えられている問題を解決することこそが、最優先のCSR活動であると信じて取り組んできました。さらに近年は地域社会への貢献等、他の分野の体制も充実させています。

厚木支店 板かまぼこ作りでギネス世界記録認定のお手伝い

小田原市の特産であるかまぼこのPRのために、『世界一長い板かまぼこ作り』のギネス世界記録に挑戦するイベントが、10月4日(日)に小田原市内で開催され、参考記録15mを抜き、87.95m(重量187kg)でギネス世界記録に認定されました。

厚木支店は、企業協賛として社員9名で、ME-30型、ME-40型の電気ボイラをお貸しして、抽選で選ばれた約400名の参加者の皆様とかまぼこ作りを行いました。

このイベントは約2,000名の来場者で賑わいましたが、モルディブの大使ならびに小田原蒲鉾協同組合の皆様やかまぼこ作りに参加した皆様と交流が深まり、最後に認定された約88mのかまぼこをみんなでおいしくいただきました。



最も長い板かまぼこ作り

福岡支店 事務所のLED化と公園の清掃

福岡支店は、2015年12月に新しい支店ビルが完成し、2016年1月より新事務所で業務を開始しました。新事務所は、省エネを重視し、照明設備をすべてLED化しました。運用面でも紐スイッチを付けて必要に応じて部分消灯をできるようにしています。

また、事務所に隣接する上牟田公園は、春になるとソメイヨシノの花が公園を埋めつくし、近隣の方々のお花見スポットとなっています。その公園を、事務所内の掃除に合わせて毎週、清掃を行っています。これからも、地域社会にお役に立てるよう活動していきます。



紐スイッチ付き LED 照明



清掃活動

神戸支店 事務所周辺の清掃活動

神戸支店は、13年前に現在の事務所に移転してきました。以来、地域の一員として、毎週、事務所前の道路や側溝などの清掃を実施しています。

一方、省エネの一環として、支店内の1階駐車場通路や廊下などの共用照明には、消し忘れがないように人感センサーを取り付けています。運用面でも、こまめな電灯のON・OFFや空調設定温度の管理(クールビズ、ウォームビズ)など、省エネへの意識づけも行っています。

今後も神戸支店内の従業員が一丸となって、自分たちが行える社会貢献活動を継続、推進していきます。



清掃活動



駐車場

海外現地法人におけるCSR活動

基本的な考え方

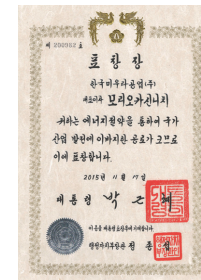
多様な価値観や慣習を尊重しつつ、日本国内で培ったミウラの省エネ・環境技術を提供することにより、大気汚染防止、CO₂削減等で社会のお役に立つ活動を展開しています。また現地の従業員の意見も取り入れながら地道な貢献活動を進めています。

韓国ミウラ工業株式会社 韓国エネルギー効率大賞の「大統領表彰」を受賞

第37回韓国エネルギー効率大賞(主催:産業通商資源部)で、ミウラ韓国が、大統領表彰を受賞しました。この賞は、省エネルギー及び国家エネルギー効率の向上に寄与した者に与えられ、外国人関連企業としては初の受賞になります。

設立以来33年にわたり、韓国の省エネルギー技術をリードしてきた実績が認められた結果です。具体的な受賞ポイントは以下の通りです。

- ・高効率貫流ボイラの開発及び台数制御システム、通信管理システムの開発を通して、直近の5年間で5,981台のボイラを販売しており、それにより、933億ウォン/年のエネルギー削減と、209,026トン/年のCO₂削減に寄与している。



大統領表彰式の様子

ミウラカナダ株式会社 「environmental conscience」を宣言

ミウラカナダでは2015年に「Mission、Vision、Value Statement」を制定しました。これらは会社のすべての活動・判断の基準になるものです。制定には原案の段階から社員全員が関わっており、全員が内容を理解し合意しています。

「Core Values」は社員に期待される行動基準5項目で、その一つに「Environmental Conscience=環境意識」があります。ビジネスで低環境負荷製品を提案・提供していくことはもちろん、各職場での環境負荷を低減すること、社外での各種活動にて環境に配慮し行動することなどが要求されています。既に製造現場での排水処理、オフィスでのペーパーレス、社用車の燃費

記録追跡など、多くの取り組みを行っています。

またこの「Statement」はWEBサイトなどを通して広く社外にも公表しており、ミウラカナダの社員として「Environmental Conscience」な行動をとることを社会に宣言し約束しています。



環境意識宣言

ミウラインドネシア株式会社 「環境美化」社会貢献活動

ミウラインドネシアの会社方針に沿った社会貢献活動として、以下の活動を実施しました。なお、こういった活動を通して、会社・政府・社会の協力により、将来に向けてインドネシア、特にカラワン市の環境改善に取り組みたいと思います。

1. 工業団地内の植樹

2015年6月5日、世界環境デーの行事としてKIIC工業団地内で植樹活動を実施しました。

2. 海岸の清掃及び必需品の寄付

2015年9月19日には、従業員とその家族が100名あまり参加し、新サモドラ海岸の清掃を行いました。子どもたちの活躍もあり、2時間にわたる活動で1.5トンのごみが集まりました。その後、この地域の恵まれない方にお米などの必需品を寄付しました。

3. メカラムリヤ村の1万本の植樹

2015年12月22日、KIIC工業団地内の企業と協力して、カラワン県のメカラムリヤ村で一万本の植樹活動を実施しました。



メカラムリヤ村の植樹の様子



昨年より、自家用車から公共交通機関の通勤に切り替えました。CO₂削減だけでなく、歩く距離が増えたおかげで体重7キロの削減にもなりました。

三浦マニファクチャリング 山下英一



我が家は8階にありますが、省エネと健康のため、エレベータを使わずに階段を利用することがよくあります。

ミウラ蘇州 李曉紅



コーポレート・ガバナンス

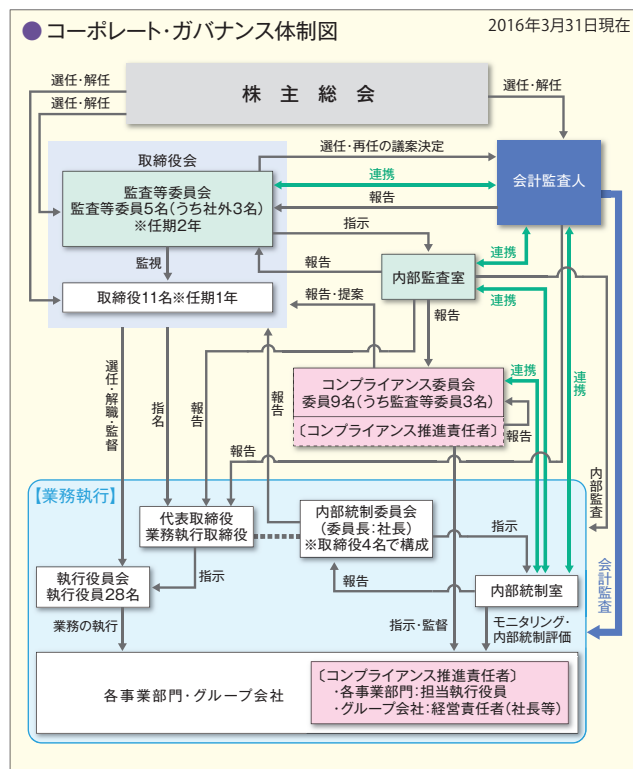
基本的な考え方

ミウラグループは、ステークホルダーと良好な関係を築き、共に発展を図ることが重要であると認識しており、公正で透明性・効率性の高い経営を目指して管理体制の充実に努めています。また、持続的に企業価値を向上させるための積極的な行動を可能とする自立的な体制を整えることが重要であると考えています。

現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要

▼ 取締役、取締役会、執行役員会

取締役会は、取締役16名（うち監査等委員5名）で構成され、経営の意思決定を行うとともに、各取締役の業務執行の適法性・妥当性について監督を行っており、執行役員会は、業務執行に関する事項を協議・決定し、迅速な業務執行に努めています。



内部統制システム等に関する事項

▼ 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

経営戦略や事業目的を組織として適正かつ効率的に達成するため、業務の効率化を高め、情報の信頼性を確保するとともに法令遵守の体制を構築していくことが内部統制システムの基本であると考えており、法令を遵守することはもちろん、企業倫理に照らして誠実かつ公正に業務を遂行することが重要であると認識しています。この方針に基づき、取締役及び執行役員等で構成される「コンプライアンス委員会」を設置し、「ミウラグループ企業行動規範」の周知徹底に努めています。また、従業員に対して社内のほか社外弁護士を相談窓口とする内部通報制度を導入し、社内不祥事情報の早期収集を図っています。

▼ 監査等委員、監査等委員会

監査等委員会は、監査等委員5名（うち社外取締役3名）で構成され、監査方針等の決定や各監査等委員及び内部監査室から報告された監査結果について協議しています。また、監査等委員以外取締役の選任、解任及び辞任並びに報酬等については代表取締役から相談を受け、監査等委員会として意見をしています。監査等委員は、取締役会等重要な会議への出席に加え、内部監査室と連携して本社や主要な事業部門、グループ会社の調査等により、業務執行者に対する監査・監督を行っています。

▼ 内部監査

内部監査は、取締役社長直轄の内部監査室（スタッフ4名）を設置し、子会社を含めた各部門の資産、会計、業務等の全般に関して経営方針、関係法令、社内規程等に準拠して適正に行われているか定期的に内部監査を実施するとともに、必要に応じて改善・提言を行っています。監査結果は、定期的に取締役社長、業務担当取締役及び監査等委員会に報告します。

▼ 会計監査

会社法及び、金融商品取引法に基づく会計監査人に「有限責任監査法人トーマツ」を選任しています。なお、同監査法人及び当社監査に従事する業務執行社員と会社の間には、特別の利害関係はありません。

▼ 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

「ミウラグループ企業行動規範」のなかで、反社会的な活動を行う団体や勢力とは、一切の関係を持たないことを明記しています。

また、「反社会的勢力対応要領」を制定し、この要領に基づき、所轄の警察署や顧問弁護士の指導を仰ぎながら、企業として毅然とした態度で臨んでいます。

「ミウラグループ企業行動規範」の詳細は本報告書の4ページに記載しています。

コンプライアンス、リスクマネジメント

基本的な考え方

コンプライアンスとリスクマネジメントはコーポレート・ガバナンスを支える基盤であり、切り離せない両輪であるという認識のもと、国内・海外のグループ全従業員に「ミウラグループ企業行動規範」を浸透させ、企業を取り巻くあらゆるリスクに対して公正で適正な対応を進めています。

情報の保護・情報セキュリティの取り組み

お客様から信頼される企業であり続けるために、お客様からお預かりした情報資産（個人情報や設備情報等）、並びに保有する情報資産（営業上の秘密やノウハウ、インサイダー情報、技術情報等）の適正な管理・保護に努めています。

▼ セキュリティ対策の継続的な強化

「情報管理規程」として情報セキュリティ対策を定め、セキュリティ管理体制を明確にし、情報セキュリティの定期的な見直しと対策強化を継続的にを行っています。

▼ 従業員教育を毎年実施

情報機器を取り扱う全従業員に対して毎年e-ラーニングによる教育を実施しており、情報取り扱いルールの周知徹底を図っています。

▼ 個人情報保護

お客様からお預かりした大切な個人情報に関しては、三浦工業のWEBサイトに記載した「個人情報保護ポリシー」のもと、取り扱いについてのルールを整備しています。また、保護状況については内部監査等により継続的な見直しを行っています。

安全保障輸出管理への取り組み

我が国では、国際的な平和及び安全の維持の観点から、軍事転用可能な貨物や技術を輸出する際には、経済産業大臣の許可が必要となる場合があることを「外国為替及び外国貿易法」に定め、軍事転用可能な貨物や技術を国際社会の安全を脅かすような国家やテロリスト集団など、懸念活動を行うおそれがある者に渡ることを防止しています。

三浦工業は、「国際的な安全と平和を阻害するおそれのある取引に関与しない」を基本方針として「安全保障輸出管理規程」（経済産業省へ届出済み）を定め、輸出許可の可否を判断するための貨物・技術の該非判定と取引審査、定期監査、教育訓練、グループ会社への指導などを行い、法令を遵守した適正な輸出管理に努めています。

知的財産の保護

第三者の知的財産権を尊重し、侵害しないように努めるとともに、自社の知的財産権の確保を積極的に行い、有効に活用する活動に取り組んでいます。

① 知的財産権の尊重

第三者の知的財産権を侵害することがないよう、先行技術等の調査を十分にを行い、その結果を反映させた新技術・新製品の研究及び開発を行っています。

② 知的財産活動

研究・開発の初期段階から事業部門と知的財産室とが連携し、発明の抽出や特許等の権利化を戦略的にを行い、技術の保護、及び知的財産の強化を図っています。

③ 従業員教育

知的財産権の保護や著作権等に関する教育を、集合教育やe-ラーニング等により継続的にを行っています。

事業継続計画（BCP）への対応

従来より「地震対策をはじめとする危機管理要領」、「海外緊急事態発生時連絡要領」、「新型インフルエンザ対策要領」などを制定し、事業継続を脅かすさまざまなリスクへの対策を講じてきました。2012年度からは、以下のBCP*基本方針に基づき、主に東南海・南海地震を想定して、緊急時の対策を進めているほか、防災・減災の基本的な知識を習得するためのe-ラーニング、年2回の安否確認システムによる安否確認訓練などを実施し、従業員の防災力の向上に努めています。

関連する情報を、「お客様の役に立つBCP対策」（28ページ）に掲載しています。

＜BCP基本方針＞

1. 従業員とその家族の安全と安心を優先します。
2. 事業の早期復旧を図り、お客様への製品及びテクノサービスの安定供給を確保します。
3. 地域とお客様の復旧・復興を支援します。
4. BCPにより、すべてのステークホルダーに安心を提供し、より信頼される企業になります。

*BCP: Business Continuity Planning（事業継続計画）の略で、災害や事故など不測の事態を想定して、事業継続の視点から対応策をまとめた計画のことです。



エコで事務所の環境を良くしよう！
沖縄の西日を浴びているクーラーの室外機のとこにゴーヤを植えました！！
育てて、エコゴーヤチャンプルで乾杯！！

西日本事業本部 小丸靖志



会社ではmyコップを持参して、飲み物を飲んでいます。
夏は冷たく、冬は温かいものを飲めるので、仕事にも集中できます！
ペットボトルや缶を買うことが減り、お財布にも環境にも優しいです★

東日本事業本部 堀金靖子



お客様への責任と行動

基本的な考え方

我々は、「ミウラグループ企業行動規範」に則って行動し、お客様に役立つ技術を磨き、製品やサービスにおけるすべての「品質」を高めるべく、チャレンジし続けます。

品質マネジメント宣言

基本理念

わが社に対するお客様の信頼は、製品やサービスの品質の上に成り立っている。ここにお客様最優先・安全最優先を宣言し、全社員が危機感を持ち、テクノサービス力を強化しそれぞれの部門でその役割を積極的に果たす。

品質方針

コーポレートステートメント「熱・水・環境のベストパートナー」を実現するにあたり、次の行動をすべての社員がそれぞれに全うしなければならない。

品質行動指針

1. 法令・規制要求事項を遵守し、安全性を第一に考えたものづくりを行う。
2. 社会的に有用で高品質の製品やサービスを創出し、お客様の満足を得る。
3. 最高のテクノサービスを追求し、お客様から信頼される企業を目指す。
4. 環境への配慮を重視した製品・サービスを開発し、提供し社会に貢献する。
5. 全体最適の視点・グローバルな視点で考え、継続的に品質の向上を図る。

ミウラグループの第三者認証や製品認証などの取得状況は、WEBサイトでご覧いただけます。
<http://www.miuraz.co.jp/corporate/iso.html>

ミウラのものづくり品質

2015年10月「ものづくり管理部」が設立されました。これまで「溶接道場」で行ってきた溶接技術の向上と伝承を目的とした教育のほかに、溶接以外の様々な技能教育を支援する組織です。

製造部門の教育は、溶接、組立、電気、機械加工など11の分野に分かれて経験年数ごとに体系化されており、基礎知識の習得や資格取得を推進するための学科、専門技能を身につける実技指導など、年間を通じて様々なカリキュラムが構築されています。

またミウラグループでは15年前から毎年溶接コンクールを

開催しています。2015年度は海外現地法人と国内の調達先を含む計16社の溶接技能者115名が参加して大規模な大会になりました。長年に渡る取り組みにより、溶接の技量向上はもちろん若手の早期育成にも貢献しています。

そのノウハウを活用して、2015年度から新たに組立コンクールと電気配線コンクールを開催しました。若手からベテランまで、男女を問わず参加し、配管や制御盤の組立技能を競い合いました。

今後もさまざまな職域で互いに切磋琢磨する取り組みを推進し、より良い製品づくりに努めてまいります。



新入社員への溶接指導



溶接コンクール競技場



組立コンクール及び電気配線コンクールの表彰式

お客様の問題解決(三位一体の総合力)

三浦工業は、技術・営業・メンテナンスの各部門が緊密に連携して一体的に動くワンストップサービスを何よりも大切にしています。この三位一体の連携がなければお客様に満足をお届けすることはできません。

▼技術力

●第36回優秀省エネルギー機器
日本機械工業連合会 会長賞

三浦工業は、一般社団法人日本機械工業連合会が主催する優秀省エネルギー機器表彰において、「日本機械工業連合会会長賞」を受賞しました。受賞機器『ガス焚き高圧貫流ボイラSQとダブルドレン回収ユニット(クローズドドレン回収装置HXとフラッシュ蒸気回収装置付きオープンドレンタンクMDT-H)のシステム』は、高い省エネルギー効果を評価されての受賞となります。

受賞したシステムのフロー図を特集Ⅲ(12ページ)に掲載しています。



表彰盾

▼営業力

工場設備における、省エネ・活エネは、工場全体で見直す時代です。三浦工業は、これまでに35,000件を超える日誌・負荷分析、工場診断の実績があり、お客様を直接訪問して工場の各種設備の最適化をサポートしています。

近年は、海外現地社員の研修にも注力し、国内で培ってきた省エネ・省コスト、お客様最優先、安全最優先のソリューションを提供する「ユーザー様への直接提案営業」の手法を海外市場にも拡大することで、お客様との絆・信頼を一層深めています。

お客様の役に立つBCP対策

天変地異など、予期せぬ危機に直面したとき、お客様のビジネスを継続するため、いかに適切かつ迅速に災害対策を実行できるか、企業の力が試される時代です。三浦工業は、安全・安心を守るサービスの提供を継続することが使命であると考えています。

▼広域IP無線の配置

2015年度、災害時の連絡手段のひとつとして、南海トラフ地震で震度6強以上の揺れが想定される地域や、津波による浸水が想定される地域にある全国35カ所の拠点に広域IP無線を配置しました。

IP無線は、通話制限を受けにくいパケット通信領域を使用するため、震災などで携帯電話が通話制限を受けた場合でも利用でき、迅速な初動対応、復旧対応ができます。



広域IP無線

▼メンテナンス力

三浦工業は、お客様がご使用される製品の「高性能・長寿命・無事故」を実現するメンテナンス活動として、アフターサービスではなくビフォアメンテナンスを提供しています。現在は、日本全国約100カ所にメンテナンス拠点を展開し、1,000名以上のサービスエンジニアを配置、一部地域(北海道、離島など)を除き2時間以内にメンテナンスを提供しています。さらに、海外でも世界6カ国で、保守点検、通信メンテナンスの体制を展開しています。



研修風景

●サービスエンジニアの育成

独自の教育プログラムに基づき、サービスエンジニアの体系的なスキルアップを図っています。同時に製品ごとの社内資格を更新制にあらため、技術力の維持・向上にも注力しています。また、コンプライアンスを重視し、技術力だけでなく倫理教育も積極的に取り入れています。

●メンテナンスツールのIT化

電子マニュアル・動画マニュアルの整備のほか、現場で作成するメンテナンスレポートの電子化にも取り組んでいます。また、すべての社用車に、ドライブレコーダを搭載し、KYT(危険予知訓練)では、実際の映像によるヒヤリ・ハット事例を使った具体的な安全指導を実施し、交通事故の低減を図っています。

サービスエンジニアの声

お客様の設備を「信頼して任されている」という意識で業務に携わっています。お客様が安心して設備を使えるよう、データチェックや目視点検でトラブルを未然に防ぎ、かつ低コストで運用できるよう、お客様とFace to Faceで対話していくことが、サービスエンジニアの責任と考えています。



仙台支店
仙台北メンテ
紺野利貴

▼医療用機器に対する初動体制への備え

大規模災害が発生した場合などには、応急対策を行うため、法令に基づいて、緊急交通路が指定されます。三浦工業では、このような通行規制に備え、医療用機器の業務に従事する車両を規制除外車両として事前申請し、有事に備えています。



全国で60台以上の車両を届出済

▼オンラインメンテナンスのバックアップシステム

大規模災害などにより、愛媛の本社機能が不全に陥った場合に備え、栃木支店にオンラインメンテナンスのバックアップシステムを設置しています。また、日常的に使用する業務用データなどは社内サーバと同期させ、国内だけでなく、海外拠点の事業も継続できるよう、最低限必要なデータをバックアップサーバに蓄積しています。



休日の昼間はできるだけ図書館などの公共施設やショッピングセンターに出かけるようにしています。家にいると冷暖房や家電をいっぱい使ってしまうからね。

環境事業本部 鷲埜史明



捨ててしまうのはもったいないけど、買ってからあまり使っていないものなんかをフリマアプリに出しています。他の方に使ってもらえるとエコになるし、部屋も片付いて一石二鳥!

MI事業本部 石坂陽子



株主・投資家への責任と行動

基本的な考え方

企業価値の最大化を目指して効率性の高い経営に努めるとともに、株主や投資家の皆様が必要とする企業情報を適正かつ適時に開示し、対話を通じて経営の透明性を高め、開かれた企業を目指しています。

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

ミウラグループでは、ホームページなどで適時・適切な情報開示を行うとともに、株主総会や各種説明会で社長自らが語ることで、株主・投資家の皆様との「顔の見えるコミュニケーション作り」を展開しています。今後も、皆様からのお声を受け止め、長期的な信頼関係の構築と企業価値の向上にさらに努めてまいります。

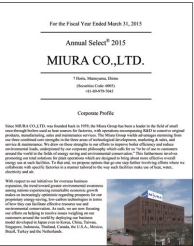
適時・適切な情報開示

IRサイト

ホームページでは、ニュースリリース、決算関連資料など、当社の動向や財務状況を適宜開示しています。2015年度より、英訳版の決算説明会資料、株主通信の掲載を始めました。今後も積極的な情報開示を行ってまいります。



IR サイト



英訳版株主通信「Annual Select2015」表紙

株主通信

業績や経営戦略のほかに、ミウラグループの事業を「教えて！ミウラマン」のページで紹介しています。マンガ等を使い、情報を分かりやすくお伝えすることで、株主通信が有効なコミュニケーションツールの1つとなるよう努めています。



第58期中間株主通信



教えて！ミウラマン

長期的な信頼関係の構築

株主総会

2016年6月に開催された第58回定時株主総会は、本社のある愛媛県松山市の三浦リタレセンター（研修施設）で開催し、149名の株主の皆様にお越しいただきました。総会に引き続き、社長自ら経営戦略等を説明する「IRセミナー」を開催し、株主の皆様と直接対話する場を設けました。



第58回株主総会

各種説明会の開催

2015年度は、機関投資家向け決算説明会を東京で2回、個人投資家向け会社説明会を松山、横浜で開催しました。経営トップが登壇し、業績、経営戦略の説明を行い、投資家の皆様と直接対話しました。個人投資家向け会社説明会では、株主優待品の「軟太郎特別価格優待券」にちなみ、会場に「軟水手洗い体感コーナー」を設置し、ご好評をいただきました。



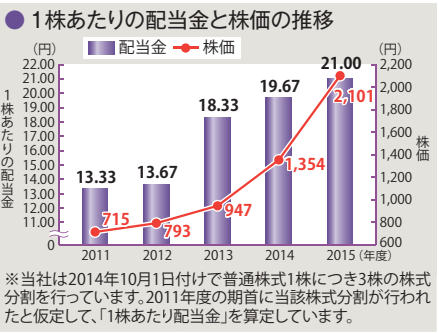
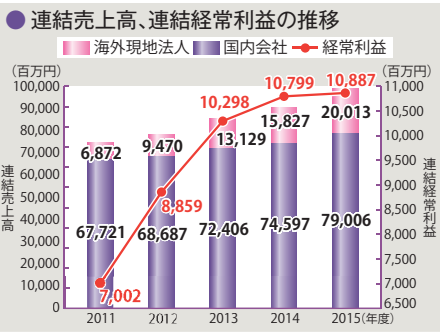
機関投資家向け決算説明会（東京）



軟水手洗い体感コーナー

利益還元

三浦工業は、利益配分を重要な経営課題として認識し、経営基盤の強化を図りながら、連結配当性向30%を目処として、安定的な配当の継続を基本としています。2015年2月株主優待制度を発表し、導入しましたが、今後も株主の皆様への長期安定的な収益の確保と積極的な利益還元を努めてまいります。



取引先への責任と行動

基本的な考え方

購買部門は、取引先の皆様との相互理解を深め、ともに法令、社会規範を遵守し、環境の保全など企業の社会的責任を果たしていけるよう、取引先の協力を得ながら積極的に推進いたします。取引先から供給いただく優れた資材により、よりよい製品を実現しお客様へ提供していきます。

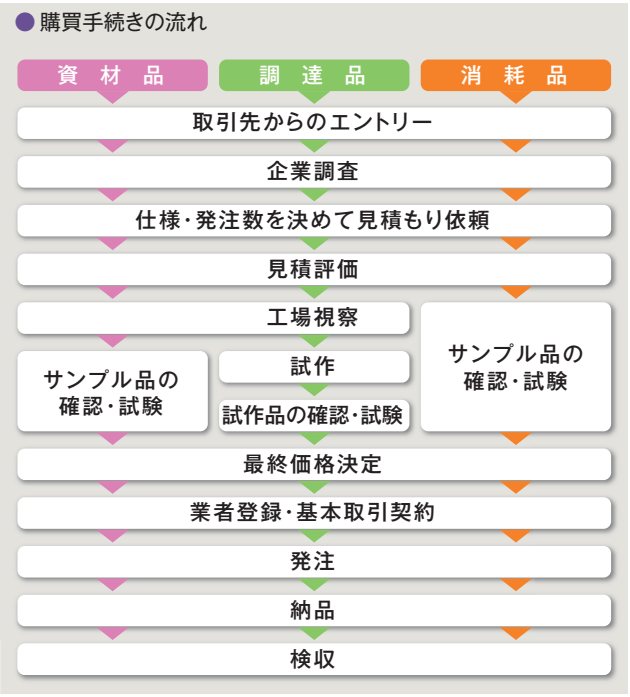
調達の基本方針

オープン	日本国内だけでなく、広く海外の企業に対しても門戸を開き、優れた製品を有し、良好なサービスを得られる企業との取引を求めています。また常に新しい企業との購買取引を心掛けています。
公正	取引先の選定は、製品の品質・性能・価格・納期の確実性、アフターサービス体制、および経営状態などを総合的に判断し公正に選定します。
相互信頼	公正な取引を通じて、取引先の皆様との相互理解と信頼を深め、相互利益のために信頼関係を築き上げていくよう努めています。
法令の遵守	弊社との購買取引にあたって、弊社と取引先の皆様の双方が、国際社会の関連法規ならびにその精神を遵守すべきであると考えます。
社会への貢献	弊社と取引先の皆様が購買取引を通じて、ともに社会に貢献する良きパートナーとなるべきであると考えます。

「調達の基本方針」の詳細はWEBサイトでご覧いただけます。 <http://www.miuraz.co.jp/corporate/trade/basic.html>

購買手続き

新規に取引を希望される取引先に対しても受け入れ態勢を整え、国内外、地域の差別なく公正な評価により選定を行います。



四位一体改革の推進

ミウラグループは世界連携で四位一体（設計・グループ製造会社・資材調達・協力会社）の生産改革を展開し、高品質・低コスト・短納期を実現する生産体制の構築に取り組んでいます。



トップサプライヤーとの情報共有化

理念を共有するトップサプライヤー（グループ製造会社と主要協力会社）とは年度ごとに品質に関する目標設定を行い、Q：品質、C：コスト、D：納期、F：変化対応について定期的な会合を開催し、情報の共有化を図っています。



トップサプライヤー経営者会議の様子



カナダでは、ワインやビールの自家醸造は合法です。しかも自家醸造は、かなりエコロジカルと思われま。まず家で作るので酒屋に車で行く必要がありません。容器も使いまわしのため、使用数量は限られています。ぶどうの搾りかすも肥料に使えます。

ミウラカナダ 添田公夫



松山といえば節水です。昔はダム貯水率を教えてください。メルマガに登録していました。蛇口はすぐ閉める！これ徹底してます。

BP事業推進本部 竹田未那美



地域社会への責任と行動

基本的な考え方

ミウラグループでは芸術や文化・学校行事の支援、環境の保全・地域活動への協力、その他のボランティア活動などの分野において、地域との共存・共栄を図りながら、地域に役立つ社会貢献に取り組んでいます。

学校行事・地域行事への支援

▼ 学校行事への支援

近隣の小中学生や高校生の工場見学、小学生の職業体験などを積極的に支援しています。

また松山市小中学校PTA連合会と松山市文化・スポーツ振興財団が共催する「キッズジョブ2016」に参加・協力し、ボイラの配管や水分析などを楽しく職業体験できる場を提供しました。



小学生の水分析体験の様子

参加者の声

これまでに数回ボランティア活動に参加してきました。今回は小学生に配管作業を教えるという自分では初めてのテーマでした。途中、新聞社の取材や保護者の視線も感じ、緊張しましたが、小学生にミウラの仕事を教えることができました。



食機技術部 部長 松林浩司

▼ 地域行事への協力

本社工場のある堀江町のNPO団体が主催する「春の青空市」や、「夏の音楽祭」に「足湯」を提供し、地域の方に喜ばれました。



恒例の足湯「みうらへ湯」

▼ 松山市「ブチ美化運動・マイロードサポーター事業」への協力

3ヶ月ごとに昼休みに本社、北条のそれぞれの工場の周辺の清掃活動を行っており、毎回100名前後の従業員が参加しています。



昼休みの清掃活動の様子

▼ 愛媛県「元気な集落づくり応援団」への協力

愛媛県を通じて要請のあった過疎地に有志が出向いて、地元の行事やイベントのお手伝いをしています。10月には県としては初めての感謝状が、三浦工業を含む2社に贈られました。



知事感謝状贈呈式での記念撮影

愛媛大学農学部への寄附講座

愛媛大学環境産業研究施設「三浦記念館」に寄附講座を開設し、環境にかかわる分析・対策技術の研究開発と教育を通して、地球環境の保全と人材育成に貢献することを目指しています。

具体的には食品や水、土壌中の化学物質やウイルスの新たな分析技術、室内環境のモニタリング技術、バイオマス資源活用技術などの研究開発に産官学連携で取り組んでいます。



愛媛大学環境産業研究施設「三浦記念館」

日本機械学会三浦賞

日本機械学会は、日本のこれからの機械工学・機械工業を担う人材の活性化と、機械分野のリーディング学会です。

2004年度より、三浦工業は同学会へ寄付金提供による顕彰実施提案をし、「日本機械学会三浦賞」を設けています。

この賞は将来を期待される若者の顕彰を通じて、人材面での育成を強化することが目的であり、これまでの受賞者は1,968名に達しています。

ミウラート・ヴィレッジ(三浦美術館)

ミウラート・ヴィレッジでは地域に根付いた美術館を目指し、2015年度は7つの展覧会を企画、開催しました。

毎年4月に開催しているお花見会を含め、今後も地域の方々に喜ばれる展覧会、ワークショップを開催していきます。



お花見会の様子

寄付・募金活動

ミウラグループでは寄付・募金活動に継続して取り組んでおり、従業員から収集した古切手・書き損じハガキは「小さな親切」運動愛媛県本部へ送付しました。また、プルタブ(アルミ)の売却益と、募金型自販機で集まった募金は「松山市社会福祉協議会まごころ銀行」に預託しています。

献血活動

ミウラグループでは30年以上にわたり、春と秋に献血活動に協力しています。2015年度には、本社・北条合わせて193名の従業員が献血に協力しました。

従業員への責任と行動

基本的な考え方

ミウラグループは「働きがいのある、働きやすい職場づくり」をモットーに、従業員の人格・個性を尊重し、安全な職場環境と良質な労働条件を提供するとともに、人材の育成と活用を推進しています。

採用実績

世界を舞台に、熱・水・環境などの分野で、これからも成長し続けていくために、自分で考え、自ら行動できる、「考動型人材」を求めています。

2016年4月には、総合職111名、一般職24名、製造技能職21名のフレッシュな若者を迎えることができました。

人材育成

ミウラグループの教育研修は、経営理念、モットー、ミッション(使命・役割)の実現に向け、自分で何ができるかを考え、自ら行動できる自立型従業員への育成を目指しています。

1年間に開催する研修は300回を超え、延べ5,000名以上の従業員が参加しています。

また、近年では真のグローバル企業への飛躍を目指し、海外現地法人の従業員への教育や語学教育などに一層力を入れています。今後も引き続き、従業員一人ひとりが仕事を通して成長できる教育に力を入れていく姿勢は変わりません。



役職者マネジメント研修



ディスカッション

健康促進

2015年度は、「健康ウォークラリー」を2回実施しました。また、健康に関するe-ラーニングも実施しました。

ワークライフバランス

従業員一人ひとりが心身ともに充実した状態で意欲と能力を最大限に発揮できる職場づくりの一環として、有給休暇を取得しやすい環境整備と、残業削減をすすめています。

2016年4月からは、私傷病や家族の看護・介護に利用可能な積立有給休暇制度の拡充を図ります。

また、入社初回の有給日数を増加するなど、入社5年目までの有給付与日数を増加します。

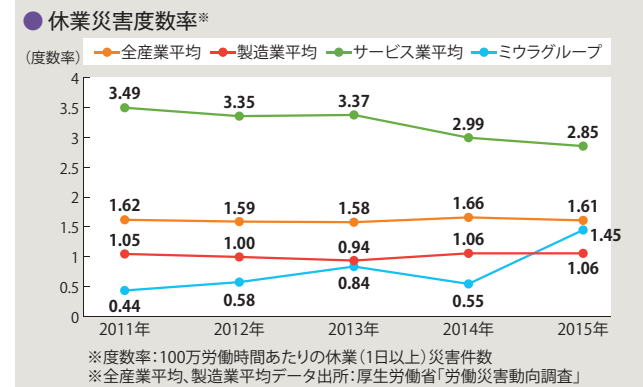
残業削減対策としては、2016年10月から技術部門の一部にフレックスタイム制度を導入します。

労働安全衛生

全国で1,000名超のサービスエンジニアがメンテナンスに従事していますが、2015年度は工事委託業者を含め拠点での労働災害が増加してしまい、度数率が製造業の平均を上回ってしまいました。

今後も労働災害の撲滅に向けて、危険体感研修の対象者拡大や、安全衛生管理体制の見直しをはじめ、リスクアセスメント、KYT、ヒヤリハット活動を加速させていきます。

参考のため、機械修理業が該当する「サービス業(他に分類されないもの)」の度数率もグラフの中に取り込みました。



育児支援の充実

きらきらキッズ開園

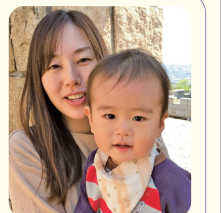
2016年4月に、事業所内保育園「きらきらキッズ」が開園しました。地元でお付き合いのある社会福祉法人福角会様、堀江病院様との共同運営により実現しました。松山市の認可基準を満たしており、また福角会様は他にも保育園を運営しておられますので、安心して利用できます。社員が利用する場合、保育料は市町村決定額より5,000円割引となります。近隣にお住まいの一般の方もご利用可能です。子育て中のお父さん、お母さんを応援しています。



保育室

利用者の声

大きな窓から日差しが入る、明るくきれいなお部屋です。園の周りも静かで緑の自然が多く、とても良い環境です。先生達もいつも笑顔のあいさつで迎えてくれ、息子は毎日すくすく成長しています。



物流部 河野景子



休日には近所の直売所に行き、地元生産された野菜や卵を買うようにしています。「地産地消」を心がける事で、流通によるCO₂排出量の削減にも繋がります。安心で新鮮な旬の野菜が購入出来て、地域活性にも繋がります。いい事づくめです。

中部・近畿事業本部 沖塩有美



エコキャップ運動に参加しています。ゴミの排出量も減りますし、社会貢献にも繋がるので、みなさんも是非参加してみてください。

技術本部 山口真央



第三者意見

「ミウラグループCSR報告書2016」を読んで



藤近 雅彦氏

帝塚山大学 経営学部 非常勤講師(環境会計)
滋賀県立大学 環境科学部 非常勤講師(環境会計)
立命館大学 経済学部 非常勤講師(環境経営論)
関西学院大学 経済学部 非常勤講師(CSRマネジメント論)

〈学歴〉
神戸大学大学院 経営学研究科 博士課程後期課程 修了
博士(経営学)

〈資格〉
CEAR登録 環境マネジメントシステム審査員補
OCOD認定 コンプライアンス・オフィサー

〈主な論文〉
『金融機関のCSRにおけるマテリアリティ分析』(2009)
『日本企業の取り組むCSRの課題ーISO26000を通しての考察ー』(2011)
『社会課題への適応からみた日本社会のCSRマネジメント』(2014)

三浦工業が宮内大介社長のもと、新たな体制でスタートを切ったのは2016年4月です。以後、最初の発行となる『ミウラグループCSR報告書2016』では、冒頭のトップコミットメントにおいて高橋祐二会長と宮内新社長の間で、CSRを軸とする経営のバトンがしっかりと受け継がれたことが読み取れました。

コミットメントでも明らかにされているように、CSRとはステークホルダーからの期待に応え、社会課題の解決に貢献することで企業価値を高める経営の考え方にほかなりません。エネルギーや環境をはじめとする課題に対する姿勢が、ミウラグループの遺伝子として今後も受け継がれてゆくことが期待されます。

『ミウラグループCSR報告書2016』の特徴の一つは、海外情報の充実です。海外でビジネスを展開する企業が真のグローバル企業たり得るかは、世界各地域が抱えるそれぞれの課題に真剣に向き合えるか否かにかかっています。その意味では、グローバル企業にこそ、ローカルに目を向ける姿勢が重要だといえるでしょう。

「特集I: ミウラグループのグローバル展開」や「海外現地法人におけるCSR活動」では、海外市場におけるミウラグループのビジネスの進展状況が紹介されています。とくに韓国における名誉ある大統領表彰受賞のトピックは、現地での評価の高さを直截に伝えているといえるでしょう。さらに、他の項目に目を移すと、これらの成果が生まれた背景にある、地道で困難な努力、たとえば開発や生産の現地移管、メンテナンス体制の充実、あるいは人材の育成などがしっかりと積み重ねられてきたことがうかがえました。こうした点についても、高く評価したいと考えます。

第三者意見を述べさせていただいて2年目の今年、昨年にも増して強く感じたことは、できることを探して着実に実行していこうとする努力です。2016年度は、家族の看護・

介護に利用できる積立有給休暇制度の拡充、一部の部署でのフレックス制度の新規導入、あるいは事業所内保育園「きらきらキッズ」の開園などがその例として挙げられます。

少子高齢化に歯止めがかからないなか、家族の介護や保育所の入所待機児童といった問題は、政府や自治体による政策対応だけでは解決できず、企業の協力が欠かせないものとなっています。

身近にある社会課題に光を当てて、できることを探して実践することで、人材の確保や地域との関係においてWin-Winの効果が出てくることを望んでいます。

一方で、課題もあります。従業員に対するCSR意識研修はその一つですが、この解決を図るうえでの「カギ」と思われるのが、CSR報告書の活用です。「エコピーブルのつづやき」や「〇〇の声」など多くの従業員が誌面に登場しているため、堅苦しい研修テキストとは異なり親しみも感じてもらいやすいのではないのでしょうか。CSR報告書には、従業員の家族や、入社予定の学生さんに読んでいただくなどの使い方も考えられますので是非検討していただきたいと思います。

さらに業界をリードする企業として、サプライチェーンへのCSR展開も大きな意義を持ちます。組織の社会的責任に関する国際規格としてISO26000が良く知られていますが、今年度はその考え方をサプライチェーンに展開する「持続可能な調達」のためのガイダンスISO20400の規格発行が予定されています。企業グループの枠を越えたCSRの連携は、今後の大きな焦点となることは間違いありません。

今回、創業者・故 三浦保氏の言語録に「まかぬ種は生えぬ 今どんな種をまいているかが大切だ」という旨のものがあるとお聞きしました。これからも世界に欠かせないミウラグループであり続けるために、CSRの“種”をまき続けていただくことを期待します。

第三者意見を 受けて

代表取締役 専務執行役員 COO

西原正勝



藤近様、昨年に引き続き、貴重なご意見をくださいまして、誠にありがとうございました。

2016年4月に宮内新社長のもと、新たな体制で「世界一安くて良い熱・水・環境商品を世界のお客様に届けよう!」をスローガンとしてスタートしました。そしてCSR活動に対する経営軸を変えることなく、今後もミウラのDNAを受け継ぎながら、あらゆるステークホルダーの皆様から、信頼される企業を目指していく所存です。

「グローバル化」については、ご想像のとおり、現地(海外の現場)を第一に考えながら、これまで国内で培ってきた商品力、技術力、営業力・メンテナンス力、生産力等を展開してきました。もちろん、現地の人材育成も並行しておこなってきました。

我々はCSR活動をより充実させるためには、従業員一人

ひとりが、働きがいがあり、働きやすい職場を目指し、かつワークライフバランスのとれた、より良いエクセレントカンパニーを実現させる必要があると考えています。そのため人事制度、雇用条件(福利厚生)の改革をおこない、特に「きらきらキッズ」保育園では従業員の申し込みも増えてくるものと期待しています。

また、ご指摘のとおり課題もあります。CSR活動を支えるのは人であり、従業員一人ひとりのCSR活動に対する認識は大切であると考えています。人は企業にとって「最大の財」であり、人材(人財)をより良い方向へ導くための研修や教育等がさらなる充実へのステップと考えています。

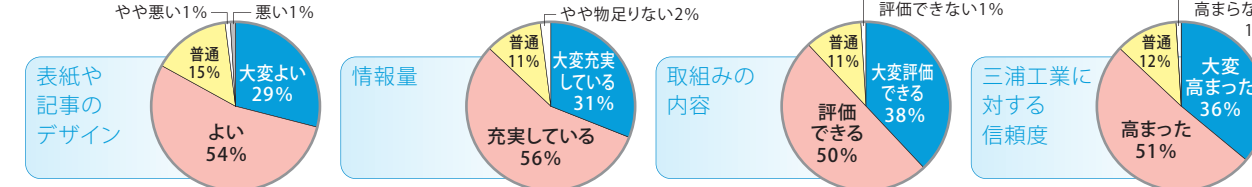
一方、最近では、CSR活動を自社のサプライチェーンに展開し、ISO26000の取得等を進めている企業もあり、各業界・団体におけるCSR活動の共通課題のひとつと考えています。これまでは四位一体(設計・グループ製造会社・資材調達・協力会社)の生産改革や、トップサプライヤー(グループ製造会社と主要協力会社)と品質等の情報共有活動を展開しておりましたが、今後は、より内容を充実させ、将来にわたり課題を解決していく所存です。

そのために先ず「将来のCSR活動を支える基盤作り」として、人材育成(人づくり)に重きをおいた活動を展開し、今後、ミウラのDNAとともに、CSRの種をまき続け、CSR活動の充実を図り、社会への責任を果たしてまいります。

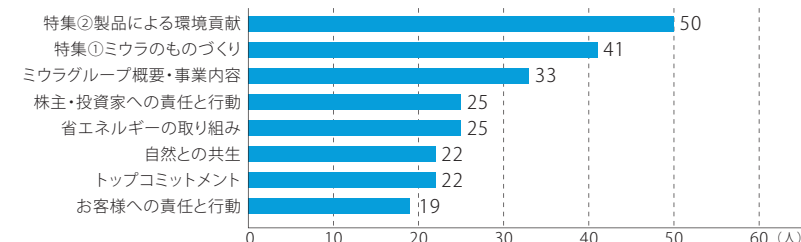
読者アンケートの結果

2015年度に発行した「ミウラグループCSR報告書2015」に対して、読者の皆様からご回答いただいたアンケートの集計結果は、下記の通りでした。(2016年3月末時点 回答数:89件)

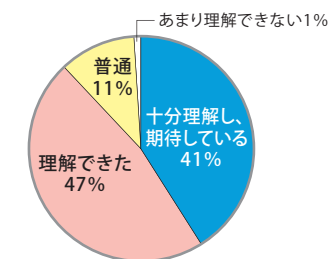
Q1.この報告書について、どのように感じられましたか。



Q2.この報告書の記事事項で、特に興味をもたれた記事を教えてください。(複数回答)【上位10項目】



Q3.当社のCSRや環境への取り組み・方針について、理解いただけましたか。



お寄せいただいたご意見・ご要望など(抜粋:原文ママ)

- 地球環境への配慮とボランティア活動を積極的に活動されていますが今後も日本だけでなく世界での活動を期待します。
- CSR報告書を数多くの企業を見ているが「エコピーブルのつづやき」のような社員の顔が見える報告書は、見たことがありません。三浦工業のCSRは、とても見やすく、分かりやすく内容も立派です。社員の顔を見て、ESとCSの共に満足して会社の成長に、夢がある企業だと思います。(このCSR報告書には、工夫が見られる)
- 汚染防止の取り組みでは、化学物質管理が更に改善され継続的に強化されていた。一過性の対策ではなく、きちんと堅実に継続する姿勢が評価される。
- 従業員の教育が徹底して行われている事に感心した。企業は人なり、今後も成長が期待できる会社だと思った。
- エコピーブルのつづやき、各人が身近な所で努力している様子が分かり楽しく読んだ。
- 今後とも日本のエネルギーの有効利用ができる技術の向上に期待しています。

皆様からのご意見を参考に、今後もCSRIに対する取り組みを充実させるとともに、わかりやすく正確にお伝えし、ご理解をいただけるように努めてまいります。また従業員のCSR意識を高めるための取り組みとして、いずれは社内のCSR研修も実施したいと考えています。



『分ければ資源』混ぜればゴミ!』を合言葉に、プラゴミ等を分別するのが私の秘かな趣味です。また、去年目覚めた趣味は多肉植物を育てること、事務所の片隅に多肉植物を置かせてもらっています。いつか会社の緑化に貢献できるくらい上手に可愛く育てることが目標です。

三浦工機 川之内優美衣



わたしのECO活動。
①マイボトル ②買い物マイバック ③資源ごみリサイクル
④洗濯すすぎ1回 ⑤家庭菜園(しいたけ)採れたておいしい!

生産本部 木戸典子

